NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

刀剣界

2022.1.15　No.62
発行人　深海　信彦
発行所　全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保２－18－10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
http://www.zentosho.com/

第62号編集担当
赤荻　稔　飯田 慶雄
伊波 賢一　大平 岳子　大平 将広　嶋田 伸夫
清水 儀孝　生野　正　瀬下　明　土子 民夫
綱取 譲一　土肥 富康　服部 暁治　深海 信彦
松本 義行　冥賀 吉也　持田 具宏

「贊助会員証」の発行について

全国刀剣商業協同組合 理事長　深海　信彦

明けましておめでとうございます。令和四年の本年もなにとぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が中国で初めて報告されたのは二〇一九年十二月でしたが、今もなお世界的な流行を見せています。わが国では昨年末までに一七三万人以上（国内人口の約一・四％）が感染症と診断され、死亡者は一万八千人を超えています。既に第六波が拡大中で、予断を許しません。

私は本紙第五十三号（令和二年五月）で「この苦境に打ち克つ」と題し、コロナ禍における個々のあり方について暗中模索ながら、当面の提案をさせていただきました。

そこでは「長い道のり」を予想し、「今は命を大切にいかに耐えるかの時期であり、健康を維持してこの苦境を乗り切る」ことを第一に、「この禍が収まった後にいち早く復興を遂げるためになすべきことをなす」ことを申し上げました。

その思いは今も全く変わりませんが、われわれにはこの二年間、苦境下での闘いで得られた知恵と工夫が身に付いています。今年はさらに創意を重ね、機会を逃さず、近い将来の発展につないでいきたいものです。

さて、当組合では年初早々に理事全員の賛同を得て、一つの決定をしました。それは新たに「贊助会員証」を発行することです。

組合が設立され、内閣総理大臣の認可を受けたのは昭和六十二年（一九八七）ですが、贊助会員制度も当初から設けてきました。定款第五十二条に「本組合は、本組合の趣旨に賛同し、本組合の事業の円滑な実施に協力しようとする者を贊助会員とすることができる。」と規定し、別に定める贊助会員規約をもって具体的な運営を図っています。

文言においては、法人その他の会員制組織の一般的なそれと何ら変わりがありません。一方、当組合の贊助会員は刀匠や刀職者が圧倒的多数を占めています。ということは、贊同・助力の域を超え、同じ業界で、利害を共にする方たちが自主的に参集してくださっているわけで、われわれ組合員は、そのことを忘れてはならないと思います。

今後は、本紙で毎号取り上げている登録証問題をはじめとする共通の諸課題解決に、力を合わせるとともに、刀剣業界関係者全体の地位の向上についても共に取り組んでいきたいと考えます。

贊助会員証が発行された後は、それぞれの必要に応じて大いに活用していただきたいものです。

公的な身分証明証としては運転免許証・パスポート・健康保険証・マイナンバーカードなどがありますが、これらは特定の目的や本人であることの確認に使用されます。これに対して贊助会員証は、職業や職務として刀剣に従事していることの証明に機能します。刀匠や刀職者のほとんどは自営業やフリーランスと思われますが、その方々の仕事の証明証は他に類例がないでしょう。

刀剣がさまざまな分野の仕事に支えられている事実は、一般に必ずしも十分に知られていません。その道のプロフェッショナルであることの証明は、各人への一層の信頼と安心に必ずや寄与するはずです。

また昨今、小田急線・京王線の刺傷事件、大阪のクリニック放火殺人事件、東大前刺傷事件やそれらの模倣事犯など、無差別の犯罪が相次いで発生しています。これに伴って、制服警察官による警戒活動が強化されていることは、ご承知の通りです。

銃砲刀剣類登録証が付いてさえいれば、刀剣は誰でも自由に持ち運びできるのですが、しばしば過剰な規制や取り締まりの対象にされかねないのも事実です。このような場合にも、贊助会員証が有効に使用されることを期待しています。

別に見本を掲げて皆さまのご理解に供しました。本来ならば、組合の発足時に考えなければならなかったことです。遅きに失した感は否めませんが、早急にこれを確定させ、贊助会員のお手元にお届けしたいと存じます。

当組合の贊助会員制度ならびに贊助会員証の趣旨にご賛同賜り、あらためてご協力頂けますよう、よろしくお願いします。

贊助会員証（見本）

（表）

ZENTOSYO MEMBER'S CARD

贊助会員証

氏　名

職　業

有効期限　　年　月　日

内閣総理大臣認可
全国刀剣商業協同組合

（裏）

当組合の贊助会員であることを証明します。

住所

氏名　　生年月日

●このカードは、他人に貸与または譲渡することはできません。
●このカードは、①組合員の資格を失ったとき、②有効期限を経過したとき、③その他組合から要求のあったときはただちに返却してください。

2022年　月　日発行

内閣総理大臣認可　全国刀剣商業協同組合
東京都新宿区大久保2-18-10-1302　☎03(3205)0601

○氏名・住所・生年月日は必須です。
○職業欄には次のように表示します（例）。
刀匠（文化庁承認）　研師（美術刀剣）　鞘師（美術刀剣）
白銀師（美術刀剣）　日本刀研究家
※その他、ご意見を承ります。
○縦 2.5×ヨコ 2.0㎝のカラー顔写真を添付します。
○発行手数料は、初回のみ無料です。再発行および更新発行（５年後）は実費を頂きます。

PHOTO TOPICS

1月16日、靖国神社遊就館講堂で開催された全日本刀匠会関東支部主催「現代刀鑑賞会」の一コマ　（撮影／トム岸田）

刀 買取 委託
e-sword　イーソード
〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
刀通販サイト
www.e-sword.jp
日本刀 イーソード 検索
mail:info@e-sword.jp
(株)e-sword 平子誠之

刀剣・書画・骨董
和敬塾
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
http://wakeidou.com/

刀剣 髙吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者　髙島吉童
東京都北区滝野川７-16-６
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

銀座日本刀ミュージアム
泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座６-７-16
岩月ビル２階
㈱銀座泰文堂　代表 川島貴敏
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
http://www.taibundo.com

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
㈱日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

古老に聴く　第五回

金小札緋威のこと

網取　譲一

「誰もが金小札緋威というものに一度はいやな思いをするのですよ」と言ったのは東京品川区の某寺の住職、故・鈴木憲雄さん。前号、前々号に出てきた故・名和弓雄さんの親戚に当たり、甲冑のコレクターとしても知られていた。

甲冑を多く扱う業者さんなら、この言葉がどういう甲冑を表しているか浮かびつつあるだろう。㈱紀の国屋の会長、故・千木良明氏は「このようなものが作られた背景に、近づく戦争の足音があり、戦意高揚と、愛国心啓発の狙いがあり、たくさん作られた」と語り、板橋区立郷土資料館で平成二十八年に開かれた「関谷弘道コレクション展」では、ギャラリートークを担当した日本甲冑武具研究保存会評議員の山田怜門氏がまさにその代表選手のような具足を前に、「見向きもされなくなった甲冑部品を集め、塗り直し、威直しを加え、もう一度生命を込めようとした。古いものは大切にしなくてはならない、という思いがある」と語った。つまり作られた時点で、ドナーから集められたフランケンシュタイン状態なのだ。

金本小札緋糸威二枚胴具足

この企画展では「総選挙」と称して、何領かの具足を対象にアイドル調に人気投票を行った。その結果、この金小札緋威はかなり上位に。整形美系アイドルが天然美系アイドルを打ち負かした瞬間を、ベテラン愛好家たちがショックとともに見届けた企画だった。

金色は人の心をつかみ取るのだろうか。当組合員の川口博氏は、参考になりそうな興味深い現象を目にしている。中国からの観光客の買い物を観察していたところ、金のブランド時計と同型白金バージョンを、迷ったふりをしても心は既に金の方に行っており、もちろん金の時計を買う、との証言だった。問われるセンスよりも金の持つ威厳を優先するのだろうか。

同様、緋威の赤も人を魅了してやまない。

中世の絵巻物だろうと時代小説だろうと、緋威の甲冑は大活躍だ。金小札緋威の甲冑が全てフランケンシュタインかというと、それは大きく違う。半分がフランケンシュタイン、残り半分が華麗な宿命を背負って世に出た素晴らしいものと、金小札を残したまま絲の劣化で他の色に威し直されたものと。俺独自の統計だけどね。

フランケンシュタインの見破り方は絲を拡大してみれば難しいものではない。最小構成まで撚られているものを組合員の皆さんには仕入れてほしい。俺の下手くそな写真を使うのを躊躇していたところに中村隆司氏から、威し絲でなく柄巻の絲ではあるが素晴らしい写真の提供があった。絲の末尾を二種類比べれば一目瞭然だ。

この絲を氏は撚り絲と呼んでいるが、これに近い威し絲を甲冑関係者の一部は唐絲と俗称で呼んでいる。赤以外の唐絲もあるのだが、今は在庫や身近な甲冑の錣や袖の裾板の一段啄木畦目の下、二段か一段の菱縫の赤を見てほしい。摩滅により解れた一部に細い撚りを見つけたら、その鑑定はビンゴだ。そしてこの赤は紅花を使った染料を用い、時が経つにつれオレンジ色へと、さらには白っぽく変化を遂げる。袖の裏などを返してみれば、光の当たらない部分はトーンの強い赤のままだ。それゆえかどうか、緋威よりも紅絲威と記すケースも現在は多い。

山田氏の言葉の「見向きもされなくなった甲冑」は、ホラー映画のフランケンシュタイン博士の作った怪人のように孤独で切ない。だからと言って手を差し伸べる前に、もう一度ドライに見極めてほしいのだ。

7　古都の折々

新年に寄せて――新しい事を――

石井　理子

筆者は奈良県在住

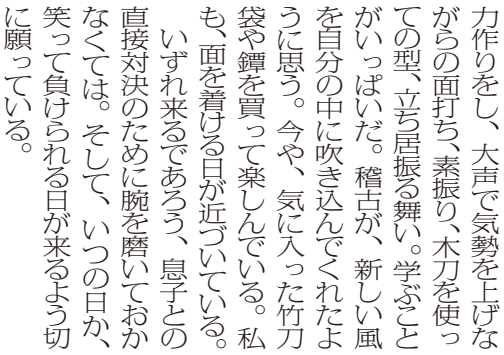
そろそろ新年のほとぼりが冷めたころだろうか。やはり、新しい物、新しい事を始めるというのはいいものだ。気持ちが改まる。

昨秋、私は剣道を始めた。といっても、中学生のころ、ほんの数カ月だけ剣道部に所属していたので、再挑戦だ。こういうのを「リバ剣―リバイバル剣士―」と言うらしい。三十数年ぶりに引っ張り出した竹刀を手に、稽古に通う日々だ。

そもそも、なぜリバ剣になる羽目になったのか…。

目下、小学一年生の息子がいる。その子を友人が主宰する道場に通わせているのだが、それが希代の意気地なしだったのだ。面をうまく着けられない、叱られるのが怖い、と言っては泣く。先生方の名誉のために申し上げるが、決して理不尽な事は言われていない。至極、まっとうなのだ。息子のしおしおと泣く姿をいつも鬼の形相で睨みつけていたのだが、いい加減にうんざりして疲れてしまった。

悩んでいるうちに、ふと「私も一緒にやればいいかも」と思い付いた。善は急げと先生に連絡すると、快諾された。翌日から、先生のおさがりの胴着を着て稽古を始めた。息子は驚きつつも喜んで、私と並んで竹刀を振っている。



なんと…楽しいんだろう。

子供たちと一緒に走り回って体力作りをし、大声で気勢を上げながらの面打ち、素振り、木刀を使っての型、立ち居振る舞い。学ぶことがいっぱいだ。稽古が、新しい風を自分の中に吹き込んでくれたように思う。今や、気に入った竹刀袋や鍔を買って楽しんでいる。私も、面を着ける日が近づいている。

いずれ来るであろう、息子との直接対決のために腕を磨いておかなくては。そして、いつの日か、笑って負けられる日が来るよう切に願っている。

刀職登場

修業時代の思い出

研師　井上　聡

私は、一九九〇年に藤代興里師の元に入門しました。

当時は、兄弟子に藤田雄二さんもおられました。細かいことは藤田さんに教えてもらい、たくさん叱られ、たくさん優しくしていただきました。入門してすぐ、新宿のトンカツ屋に連れていってもらったことを覚えています。私は人と話すのが苦手で、あまりしゃべれなかったと思います。

半年くらいして、藤田さんは独立されました。それからは、事あるごとに電話をくれて、「大丈夫か？　悩みはないか？」と気遣い、とても優しくしてくださいました。数年後、藤田さんは亡くなられました。

「今度、焼肉を食べに連れてってやる」「カレー食べにおいで」と言ってくれていたのに、行けなかったことを、今でも後悔しています。最初に先生の芯の優しさや藤代一門の温かさを、藤田さんに教えていただいたと思います。

先生には「自分が良いと思うように研ぎなさい」と言われました。

一振一振、刀を減らさず良い研ぎがしたいと思いながら研いでいます。いつか先生に褒めてもらえるような研ぎがしたいです。

時々ふっと、あの世に行ったら藤田さんに怒られるなぁと思ったり、「お前はしょうがねぇなぁ」と笑ってもらえるかなぁと思ったりしています。

〈受賞歴〉（公財）日本美術刀剣保存協会「刀剣研磨・外装技術発表会」「現代刀職展」研磨・外装の部、平成十四年木屋賞、十七年千葉賞、二十四年竹屋賞、二十五年木屋賞、二十八年寒山賞、令和三年木屋賞。ほかに優秀賞十回、努力賞八回、入選三回。

■連絡先＝〒662-0071　兵庫県西宮市桜町一-六九

☎〇七九八-七一-五三五九

テーマは古刀の謎の解明

研師　倉島　一（ひとし）

〈師匠〉橋本昌尚氏（新潟）。墨賢蔵氏（東京）に一年間手ほどきを受ける。

〈受賞歴〉日刀保にて特賞一回ほか。刀文協にて特別賞二回、金賞など。

〈研究テーマ〉研師の修業に入った当初から、鎌倉時代の太刀はどのように作られているかの解明。

〈研究発表〉①『刀剣美術』平成二十二年十二月号に、鎌倉時代の国宝太刀の反り曲線は懸垂線（建築では「縄だるみ」と呼ばれる）であると、コンピューター解析の結果を発表。②令和元年の「鉄の技術と歴史」研究フォーラムで、懸垂線（細い鎖）を使って具体的に美しい太刀姿を作る方法を発表。

〈今後の研究課題〉地景には二様あり、一つは混ぜ鉄（正宗・貞宗など）、もう一つは働きによるものであるが、後者の成因の解明。

〈著書〉『日本刀の謎と真実』

■連絡先＝〒950-0914　新潟市中央区紫竹山三-六-六六

☎〇二五-二四五-二八九七

組合こよみ（令和3年9～12月）

9月7日　組合事務所において服部副理事長と清水専務理事が刀剣評価査定

12日　東京美術倶楽部において「大刀剣市」第4回実行委員会を開催。出席者深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・生野理事・瀬下理事・持田理事・冥賀監事・飯田相談役・大平将広氏・服部一隆氏・土子民夫氏

17日　「大刀剣市」後援依頼のため清水専務理事と嶋田常務理事が産経新聞社を訪問。伊藤本部長・櫟原氏と面談

21日　新橋プラザビルにおいて常務理事会と「大刀剣市」第5回実行委員会を開催。出席者深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事（委任）・持田理事・

28日　新橋プラザビルにおいて理事会を開催。出席者深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・濱崎氏（事務局）。全会一致により「大刀剣市」の開催見送りを決定

10月4日　銀座長州屋において組合運営費について討議。出席者深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・飯田理事

8日　組合事務所において深海理事長と伊波副理事長が刀剣評価査定

8日　組合事務所において「刀剣界」第61号編集委員会を開催（再校）。出席者深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・生野理事・土子氏

14日　組合事務所において服部副理事長・清水専務理事・綱取常務理事・生野理事が刀剣評価査定

19日　東京美術倶楽部において理事会を開催。出席者深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・大西監事・冥賀監事・濱崎氏

19日　東京美術倶楽部において「刀剣界」第62号編集委員会を開催（企画）。

19日　東京美術倶楽部において理事会を開催。出席者深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・瀬下理事・冥賀理事・持田理事・大西監事・冥賀監事・土肥富康氏・土子氏

19日　web上で「大刀剣市」カタログを公開。12月31日まで

11月7日　東京美術倶楽部において開催された全国美術商連合会に伊波副理事長が代理出席

10日　組合事務所において深海理事長が刀剣評価査定

18日　組合事務所において嶋田常務理事が刀剣評価査定

22日　刀剣評価査定のため服部副理事長と清水専務理事が埼玉県坂戸市に出張

25日　「衆議院議員和田よしあき君を励ます会」に深海理事長・清水専務理事・嶋田常務理事が出席

2日　組合事務所において臨時常務会を開催

2日　組合事務所において特別交換会の開催準備。出席者深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・生野理事

4日　刀剣評価査定のため服部副理事長と嶋田常務理事が武蔵野市に出張

17日　東京美術倶楽部において特別交換会を開催。出席者58名、出来高47,244,000円

令和4年1月15日発行

刀　剣　界

第62号

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、**記事を募集しています**。ニュースや催事情報、イベント・リポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

全国美術刀剣青年会　五十周年に寄せて

赤荻　稔

全国美術刀剣青年会（以下「青年会」）は昭和四十七年五月に設立され、令和三年に五十周年を迎えました。

伊波富彦氏・柴田和夫氏が中心となり、若手育成、業界の近代化、会員の交流・親睦等を設立の主な目的とし、また刀剣界の社会的認知、地位の向上、青年らしく刀剣人としてのマナーの向上に努める、といった内容も謳われました。

設立時のメンバーは十七名で、次の通りです（敬称略）。

伊波富彦・柴田和夫・飯田一雄・工藤勝昭・飯村和正・朝倉万幸・斎藤光興・菊一高弘・岡田茂広・内田敦・小柳博史・井出次郎・笠原康正・小美濃清明・大平将義・鷲見憲司・赤荻稔

平成15年、熱海大観荘で開催された大会の記念写真

50周年を迎えた青年会の交換会

交換会では昭和二十七年に設立された東京美術刀剣商業協同組合が最も古く、次いで全国美術刀剣会が古く、次が青年会であり、この五十年で幾多の人材を輩出してきたと断言することができます。

私自身は、父について行った交換会で柴田和夫氏に声を掛けていただき、幸運にも設立時から参加することとなりました。当時は刀剣ブームと言われた時期であり、刀剣界は活気に満ちていました。

青年会は、当時としては斬新な行事も度々行ってきました。東京美術倶楽部での公開オークション、京王プラザホテル、新宿京王百貨店での刀剣・小道具の展示即売会、銀座松屋での「鐔の美」展等々。いずれも話題を呼び、成功を収めることができました。

また、川島貴敏代表幹事の時代には、小学校を訪問して刀剣の啓発活動に取り組んだこともありました。

青年会にはその名の通り、一応、会員の定年制が設けられています。当初は四十歳でした。途中で紆余曲折はありましたが、現在は五十歳だそうです。これも時代の流れでしょうか。

大会も毎年一回催され、私が在籍していた当時は会員の最寄りの観光地などを会場に、北は仙台から西は兵庫県の有馬温泉まで、全国各地で開催されました。商いは厳しくても、アフターはいつも和やかで、懐かしい思い出がたくさんあります。

五十年の歴史の中、荒波にもまれた時期もあったようですが、現在は土肥富康代表幹事の下、順風満帆な運営が続いています。

全国美術刀剣青年会はこれからも若手の登竜門として、また交換会として、新たな歴史と伝統を育んでいくものと期待しています。青年会のますますの発展を祈念します。

（記憶を頼りに書いている部分があります。誤りがありましたらご容赦願います）

『読売新聞』昭和51年8月27日
伊波富彦・飯田慶久・深海信彦各氏が見える

話題の剣人 No.007

マツヨイさん（刀剣画家）　水彩画で開く刀美の新境地

刀剣や刀装具を押形や写真ではなく、水彩画で表現する画家さんで、滋賀県で子育てをしながら、刀剣文化の保存・継承のために描き続けている。

二歳から絵画を学び、水彩を専門に画業にいそしむ中で、出産を機にかねてから興味のあった刀剣を水彩画で表現することを始めたという。現在は『刀剣画報』にもコラムを掲載している。

専門知識や情報が難しいところから、刀剣はともすれば敬遠されがちであるが、水彩画での表現には温かみがあり、刀剣に親しみやすい雰囲気を醸し出している。

地鉄や刃の色などの表現は特に難しそうだが、マツヨイさんによれば、大変なのがナカゴだという。大事な鑑賞ポイントの一つでもあり、銘字の鏨運び、鏨枕の錆色の変化など、専門家も唸るほどだが、それにはやはり最も手間と時間をかけているらしい。

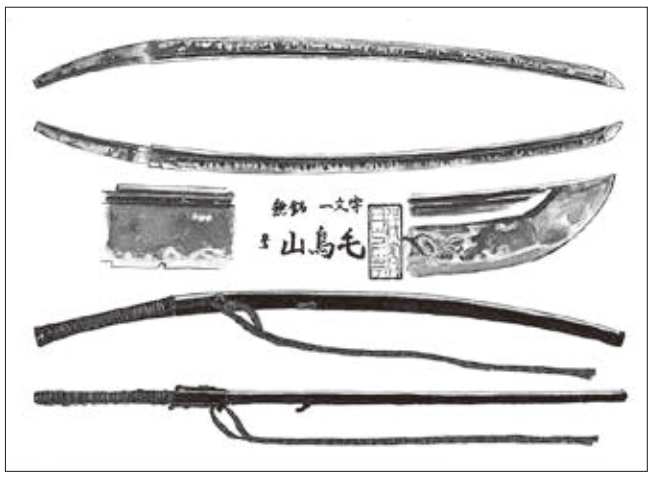
マツヨイさんへの作画依頼は現在では一般の方のみならず、刀職の方からも寄せられている。作品を違った形で残すことで、刀職にとってもメリットは大きい。

サイズは三〇～五〇cm前後の額縁に入る程度が多いが、全身を原寸大のサイズで描くことを目標に研鑽を積んでいる。

刀剣のコレクションとは別に、愛刀をこのような刀画にしてみることも意義深い。また、刀剣にあまり興味がない世代にも絵画は伝えやすく、刀剣趣味の窓口としても有効であろう。今回の取材を通して、刀剣の普及や、その保存・継承には、さまざまな手段と方法があることを痛感しました。

個人情報は割愛しましたが、刀画の詳しい情報はホームページにてご確認ください。https://matsuyoi-web.jimdofree.com/

（玉山真敏）



国宝　山鳥毛

国宝　太閤左文字

◆寄◆稿◆

日露合同映画「歳三の刀」ロシアロケ決行！　世界にSAMURAIブームを

増山麗奈（映画監督・（一社）ユーラシア国際映画祭代表理事）

世界中で「日本」をテーマにし、数十万人が集うJAPAN EXPOなどのイベントが開催されているにもかかわらず、経済も、エンタメも、伝統芸能も萎縮しています。気がつくと、日本の賃金は先進国最下位。もっと海外市場を開拓し、日本を元気にしたい！

そんな思いで、ラストサムライ・新撰組副長の土方歳三がロシアへ渡る日露合同映画「歳三の刀」を製作しています。

二〇二一年六月十五日、栃木県馬頭町の刀匠高野和也さんの刀剣道場で「隕石の刀」が魂を宿すシーンからクランクイン。

九月十～十九日にはコロナ禍の中、国境を越えロシアロケを決行。土方歳三役の俳優で武術家の源光士郎さんと、ロシア・アムール州ブラゴベシチェンスク市でロシア五大映画祭と連動し、撮影を行いました。

ロシアのロマノフ王朝には、実際に「隕石でできたサーベル」が伝わり、現在、エルミタージュ美術館で保管されています。初代ロシア全権委任大使だった榎本武揚は謁見の際にロシアの隕石製サーベルを拝見し、その後、日本で最初に隕石から「流星刀」を作刀し天皇家に献上しています。

史実と想像を組み合わせた「歳三の刀」オリジナルストーリーは、ロシア国営メディア、Russia RTスプートニクでも「あっと驚く最高の脚本」と高い評価。

歳三との恋に落ちるロシア人美女イリナを演じたのは、全露テレビで六年、ドラマ主演のナスチャ・デニソワ。源さんに剣の極意を習う撮影中、ナスチャが自身の三十五万人フォロアーのインスタに武術の極意、丹田を意識した写真を投稿すると、「いいね！」がどんどんつき「日本の侍には使命がある」と新聞記事にも。「日本の心」が新しい層にこんな風に伝わっていくって素敵なことだなぁ。

辰巳琢郎さんや栗塚旭さん、渡辺裕之さんらの名優たちが脇を固めてくれ、十二月十九日にはロシアから監督・俳優たちを日本へ招聘し、日本での撮影を行いました。

志は高いのですが、予算が足りません。どうぞ皆さんのお力をお貸しください。

今年は完成後、ロシア・エジプト・フランス、イギリス・中国などの映画祭でも上映予定。北斎ジャポニズム百六十周年。映画「歳三の刀」全世界ヒットで、ネオジャポニズムブームの火付け役になりたいと願っています。

高野和也刀匠の刀剣道場で
作刀のシーンを撮影

ニコライ2世（ウラジミール・カノプカ）と
土方歳三（源光士郎）が刀を合わせる瞬間

NEWS & TOPICS

月山刀匠を先陣に「新御番鍛冶プロジェクト」が始動

本年は、後鳥羽上皇が隠岐の島にお遷りになられて八百年になります。その顕彰事業として今、隠岐神社（島根県隠岐郡海士町海士一七四八 ☎〇八五一四ー二ー〇四六四）を中心にさまざまなイベントが行われています。

去る十月十六日には上皇が祀られる隠岐神社で「後鳥羽院遷幸八百年記念事業」が開かれました。

記念事業の一環として、後鳥羽上皇の御番鍛冶を伝承する目的で最高峰の現代刀匠たちによる隠岐神社への刀剣奉納「平成御番鍛冶プロジェクト」が開始となり、今後はクラウドファンディングを活用しながら作品を順次奉納していくこととなりました。

その最初の刀鍛冶として、師匠の月山貞利が神前打ちに臨みました。五十年前の七百五十年祭には貞一師が神前打ちをし、後に太刀を奉納しています。師匠も若い時に随行していました。

さらに昭和十四年の七百年祭には、貞一師が貞光銘の時に太刀を奉納しています。

隠岐神社の境内には、七百五十年祭の神前打ちや奉納についての顕彰碑があり、本間先生の書で説明が書かれています。

隠岐神社境内に建つ月山顕彰碑

予定では、令和五年春の大祭に合わせて太刀を奉納します。皆さまのご理解とご協力を心よりお願いいします。（月山貞伸）

後鳥羽上皇に日本刀の存続誓う

ソロモンの頭巾　長辻象平

隠岐で新御番鍛冶

鎌倉時代の承久3（1221）年、天下を二分する戦いに敗れた後鳥羽上皇が京の都から現在の島根県の沖に浮かぶ隠岐の島に配流の身となった。

執権、北条氏の追討に兵を挙げた後鳥羽上皇（1180～1239年）である。その遷幸から800年に当たる今秋、上皇を祀る隠岐諸島・中ノ島の隠岐神社で日本刀の神前鍛錬が行われた。

現代、日本刀は海外で至高の鋼の美術品として絶賛される存在だ。武器としての日本刀に、人々を魅了する芸術性を吹き込んだ天才こそが文武に秀でた後鳥羽上皇であったのだ。

配流後800年

10月16日の日没後、海士町の隠岐神社境内の仮設鍛冶場、灼熱の玉鋼を打つ槌音が響き、赤い火花が闇に飛ぶ様子を丸山達也島根県知事をはじめ、多くの人々が凝視した。

この日は隠岐神社で遷幸800年の奉納行事が催され、神前鍛錬で締めくくられた。烏帽子の装束で打ち初めを披露したのは奈良県指定無形文化財保持者の月山貞利刀匠とその一門。

記念事業に合わせた「新御番鍛冶プロジェクト」に賛同しての来島だった。

日本刀の黄金期

御番鍛冶とは、承久の乱の10年ほど前に上皇が備前の福岡一文字派の祖・則宗をはじめ、各流派の名人を諸国から毎月、御所に招いて作刀させた制度である。

名人は持てる技に一層の磨きをかける。こうして日本刀の機能と美はさらなる高みへ達した。刀剣史上、鎌倉期に名刀が多いのは後鳥羽上皇が刀剣を好み、優れた鑑識眼を持ち合わせていたことによるものだ。上皇は「新古今和歌集」の編纂者でもある。

英国人が発案者

「私は時を超えて後鳥羽上皇に呼ばれたような気がします」

日本刀研究家のポール・マーティンさん＝写真右＝は、そう話す。大英博物館の学芸員などを経て2012年から日本に拠点を定めて活躍中の人物だ。日本刀文化振興協会の評議員も務めている。

彼が初めて隠岐の島を訪ねたのは、17年の初冬。上皇ゆかりの史跡を訪ねるうちに21世紀の御番鍛冶再現のアイデアが突如ひらめいた。隠岐神社禰宜の村尾茂樹さんに提案して賛同を得たそうだ。

奈良の月山刀匠

知人で映像作家の杉本さつきさん＝同左＝の協力も得て、マーティンさん発案のプロジェクトは始動。10月の神前鍛錬が実現した。

実は隠岐神社での刀剣鍛錬は1939年にも行われている。後鳥羽上皇の島での崩御700年を記念した「昭和の御番鍛冶」だ。海士町後鳥羽院資料館には戦前の刀匠たちが鍛えた作品が展示されている。

そのうちの一人が月山貞一刀匠。今回の新御番鍛冶となった月山貞利刀匠の父親なのだ。

マーティンさんらは、後鳥羽上皇の御番鍛冶の故事にならって計12人の現代刀匠に1振りずつ作刀してもらう計画だ。隠岐神社認定の

隠岐神社の境内で奉納刀の神前鍛錬に取りかかる月山貞利刀匠。ふいごの風で火床（ほど）から炎が吹き上がる（写真はすべて新御番鍛冶プロジェクト提供）

刀匠の方々に依頼する。完成した刀剣は隠岐神社に奉納される。

憂うべき事態が

英国人のマーティンさんが新御番鍛冶プロジェクトを立ち上げたのはなぜか。

「日本刀を取り巻く環境が楽観を許さない状況にあるからです」

海外ではインターネットで勉強し、作刀する人が増えている。似て非なる日本刀もどきが生まれているのだ。中国や韓国製の居合刀が海外に輸出されているようだ。

また、本物の日本刀が海外でネット研師の手にかかると姿が崩れて取り返しのつかないことになる。

日本人の知らない所で仰天の事態が進んでいる。

一方、国内では多くの刀匠の暮らしが楽でない。後継者育成もままならないのが現状だ。刀剣女子の出現で刀への偏見は薄らいだが、現代刀匠の真新しい刀は、なかなか売れない。

日本刀の存続には刀匠だけでなく、研師、鞘師、柄巻師など多くの職人の熟練の技が必要だ。どの技が欠けても支障を来す。日本刀は本邦の伝統文化と深く結びついている。伊勢神宮の式年遷宮にも必須だ。

新御番鍛冶プロジェクトの目的は、当代最高峰の日本刀を後鳥羽上皇の眠る隠岐神社に奉納することで、正確な作刀の技と文化を将来の世代にしっかり伝えていくことにある。

12振りの奉納を

奉納刀の制作資金はインターネット上のクラウドファンディング（CF）で募る。月山刀匠が作刀を開始した1振り目のための目標額は400万円。これまでに100万円強が寄せられているが、苦戦気味だ。

杉本さんは「日本刀に関してイギリス人とイタリア人が動いているプロジェクトなので、世界規模で伝統工芸の生存戦略を組み立てたい」と話す。彼女の母堂はイタリア人なのだ。

ちなみに10月16日の隠岐は雨だった。後鳥羽上皇の行事日は昔から雨になるという。伝説は生きていた。

＝次回は12月22日掲載予定

新御番鍛冶プロジェクトのCFのURLは（https://www.makuake.com/project/shingobankaji/）

『産経新聞』令和３年11月24日

NEWS & TOPICS

アウン・サン・スー・チーさんの刀、修復完成

ミャンマーのアウン・サン・スー・チーさんの父、アウン・サン将軍（故人）遺愛の日本刀の修復作業が完了し、十一月六日、岡山県赤磐市の研師・横山智庸さんから依頼元の日本財団に引き渡された。

刀は重要無形文化財保持者の高橋貞次の作で、刃長六九・一センチ。第二次大戦中の一九四二年、飯田祥二郎陸軍中将がミャンマー方面の司令官として就任する際、当時の朝日新聞社社長が贈ったものとみられる。その後の経緯は不詳ながら、独立運動の英雄アウン・サン将軍に渡った。スー・チーさんは「日本の軍人から贈られた」と伝え聞いていたという。

軟禁前の一昨年二月、かねて交流のあった日本財団にスー・チーさんから修復依頼があり、瀬戸内市長船町の刀剣工房「備前おさふね刀剣の里」に持ち込まれ、研師・鞘師・白銀師らによる作業が続いていた。

民主政府を率いていたスー・チーさんは国軍によるクーデターで二月以来拘束されているが、一年がかりでよみがえった刀は当面、同財団が預かり、スー・チーさんの了承が得られれば日本国内での公開も検討するという。

修復した刀について説明する横山さん
（日本財団ホームページより）

◆寄◆稿◆

PCで整理したら「名刀鑑賞」が便利で面白くなりました

組合員・賛助会員の皆さまは長年にわたって日刀保発行の『刀剣美術』をご愛読されていると思います。私も長年愛読しています。

その巻頭を飾る「名刀鑑賞」は毎月の楽しみでもあります。一方、刀剣談義や調べものの際「あの正宗はいつごろの掲載だったか、去年？もっと前？」などと迷い、結局、うやむやになることがほとんどです。

そこで、今般の長い外出自粛時間を利用し、「名刀鑑賞」をパソコンで整理してみました。

対象は手許にある三〇〇号（一九八二年一月）から七六七号（二〇二〇年十二月）までの三九年四六八回分です。御刀の総本数は一回二振以上の掲載もあり、四八四振ありました。内、国宝五〇、重文一一六、重美一五六、特重一〇八、重要一九振（一部重複あり）と、天下の名刀が揃っています。二〇〇九年からは新作名刀展の受賞作も掲載されています。

日本刀は文化財として数が多く、保存が良く、来歴は確か、運が良ければ手に取って鑑賞できるなど、非常にありがたい存在であり、これも貴組合をはじめ多くの先達のご尽力のおかげと感謝しています。

解説は御刀の本体説明、特徴、流派、極め、伝来、参考銘などで記載されており、同工同系の鑑賞、鑑定に重宝します。特別展などで滅多に拝見できない御刀の掲載では、所有者様の寛大なお心に感謝しつつ、展示会に出向き一人ため息をついています。

解説者は三二九号の田野辺道宏先生から記名となり、檜山正則先生、石井彰先生と続いています。田野辺先生二七九回三三年、檜山先生六〇回、石井先生一一二回です。長年の解説、刀絵図作成にあらためて敬意を表します。

なお、今回の整理はMS-EXCELを使用しました。検索機能により、刀工別・指定別・国別検索が楽になりました。直近の三年分（二〇一八～二〇二〇年）を参考までに別掲します。

（刀剣愛好家 **鈴木光寿**）

元号	西暦	刀美	刀工	指定 国宝	重文	重美	特重	重要	その他	国	特記事項	
平成30年	2018年	732	友成		1					備前		春日大社
		733	為長			1				備前	備中	
		734	左				1			筑州	在銘	
		735	吉光	1						山城		名物後藤藤四郎
		736	来国光	1						山城		亀姫
		737	国一						1	兵庫	高松宮記念賞	
		738	国安			1				大和	粟田口	津山藩松平家
		739	国行	1						大和	当麻	福山藩阿部家
		740	正宗			1				相州		号蜂須賀正宗
		741	長光		1					備前		号庄内長光
		742	景依		1					備前	古備前風鎌倉後期	伊奈波神社
		743	祐定			1				備前	与三 天文二二年	進駐軍から
令和元年	2019年	744	近景		1					備前		神明神社襲蔵
		745	直胤			1				江戸		杉原軍記正包
		746	吉光	1						山城		立花家
		747	次直				1			備中	延文六年	
		748	国吉						1	肥後	延寿	春日大社
		749	正忠						1	滋賀	高松宮記念賞	福岡一文字私淑
		750	国安			1				山城	堀川 片切刃造	
		751	雲生				1			備前	段映り	
		752	恒次						1	備中	元徳二年	伊達家伝来
		753	金道				1			山城	三品	谷干城遺愛
		754	康継						1	江戸		日御碕神社蔵
		755	成宗			1				備前	一文字 則宗子	
令和2年	2020年	756	安家	1						伯耆		黒田家
		757	真光	1						備前	長光弟子	信長酒井 致道
		758	信房	1						備前	優美雅美	家康酒井 致道
		759	元重		1					備前	焼幅広め 逆足	高松松平家
		760	元真			1				備前	青江雲	
		761	成高		1					備前	小丁子　小互の目	頼朝 益田家
		762	国俊			1				山城	金象嵌銘	
		763	来国光				1			山城	朱書 七十七〇 松〇	紀州徳川家
		764	正忠						1	滋賀	高松宮記念賞	福岡一文字私淑
		765	正宗	1						相州	名物九鬼正宗	伊予西条松平
		766	雲次			1				備前	上寂し下乱れ	秋元家伝来
		767	助真				1			備中	妹尾 水影地斑	

公益財団法人日本刀文化振興協会

部分修復技術研修会の意義について

公益財団法人日本刀文化振興協会(吉原国家理事長)は十月十一～十三日の三日間、静岡県三島市の佐野美術館において「刀剣類の保存に関わる部分修復技術研修会」を開催した。これは文化庁の文化財研修事業(伝統工芸・文化財保存技術)の一環で行われるもので、昨年はコロナ禍のために休止となったが、今回で既に七回を数える。

そこで、各界の参考のために研修の概要を紹介してもらった。

研修会に参加した研修生と講師らの関係者

多くの刀剣類が長い時代にわたって健全に伝承されてきたのは、適切な保存管理に加え、錆や欠損が少ない時点での適切な修復が継続して施されてきたことによる。

しかし、近代以降は日本刀文化の担い手であった武士階級の消滅や極端な洋風化の影響、敗戦に伴う民間武器回収（刀狩り）の後遺症など、さまざまな要因により、保存が危惧されるところとなった。

現在、個人蔵に限らず、全国の博物館・資料館には相当数の刀剣の所蔵品が修復されずに埋もれている実情は、文化庁の助成に基づく平成二十二～二十四年度「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」や平成二十五年度「文化遺産を活かした地域活性化事業」での調査などからも明らかである。

無論、状態によって全研磨や白鞘・金具類の新規製作が必要なものもあるが、部分修復で済むものや、できるだけ現状を保存するために、積極的に部分修復を行うべきものもあり、戦後七十年以上経過する間に国宝・重要文化財をはじめとする多くの刀剣類は研磨・鞘・鎺等が施され、ますます部分修復の重要性が増してきている。

刀剣・刀装の部分修復は、古くから行われてきた重要な保存技術の一分野であり、日本刀を継承する技術は「保存の文化」と言えるであろう。正しい技術を継承する人材は各分野ともきわめて少ない。本事業はそうした現状に鑑み、刀剣類の保存のための修復技術について分野別に教授し、後継人材を育成しようとするものである。

平成二十九年度から、鎺の歪みや傷み、汚れが刀身の錆の発生原因となり、鞘の修復にも支障を来した経験などを踏まえ、総合的な刀装修復のニーズに応えることを目指して、白銀部門の研修も加えたことにより、専門職の白銀師による鎺の洗浄が錆の発生を明らかに軽減できることが実証され、時代色を変えないための低温処理による修理技術が格段に向上した。

また研磨部門では、研修会場によって異なる採光の不具合によるハイレベルな修復研磨の支障を軽減することが重要な課題だったが、タープテントを使用することで改善が進んだ。その他、修復する刀身の撮影も固定機材や照明の工夫によって改善された。

本研修には、漆芸家の室瀬和美氏（重要無形文化財保持者・日本刀文化振興協会顧問）が視察に訪れ、日本刀を保存する上で非常に意味のある研修であると評価を頂いた。そして日本国内および海外での漆の修復の経験から、日本刀の鞘の漆塗りの修復など、外装に関する研修を新たに加えるご提案も頂戴した。

なお、この研修では研修会場を提供してくださった佐野美術館が所蔵する日本刀を主たる修復対象とし、担当講師が完成までの全工程を指導・補助し、研修生に部分修復のすべてを実践してもらった。

「令和の名刀・名工展」の開催について

公益財団法人日本美術刀剣保存協会
全日本刀匠会

1．展覧会名称　「令和の名刀・名工展」

2．開催趣旨

刀職者たちは時代環境の変遷により、その行き先を見失いかけたが、人々は武器ではなく美術刀剣という在り方にその未来を見出した。日本刀は千年余の歴史があり、工芸史上重要な地位を占めるものである。そしてこの現代において、長年の伝統を継承しつつ、古の模倣や従来の踏襲に終わらない一層の技術錬磨の上に、新しい時代とともにある日本刀職方技術の姿を築き上げることが、本展覧会に課せられた使命である。

本展覧会は、公募による展覧会として厳正な基準に基づく評価を通し、作刀技術・研磨技術・外装技術の健全な発展と人材育成に寄与することを願うものである。

3．主　　催　公益財団法人日本美術刀剣保存協会・全日本刀匠会

4．会場・会期　東京会場（刀剣博物館）
2022年（令和4年）8月6日(土)～9月4日(日)
岡山会場（備前長船刀剣博物館・林原美術館）
2022年（令和4年）9月30日(金)～11月27日(日)

5．募集部門　作刀・刀身彫・彫金・研磨・白鞘・刀装（拵・拵下地・鞘塗）・柄前・白銀の8部門

6．出品作品　2020年（令和2年）1月1日以降に自己が製作・工作したもの。刀剣の出品作品には、作品受付時に登録証の原本を添付すること（公募展に未発表かつ巡回する全ての会場・会期に展示可能なものに限る）

7．書類受付　2022年（令和4年）3月24日(木)～3月31日(木)

8．作品受付　2022年（令和4年）5月9日(月)～11日(水)
刀剣博物館

9．出品料　10,000円

10．賞の種類　大賞・準大賞・入賞

11．その他
・オープン参加（現代刀職展無鑑査出品・お守り刀展覧会特待者出品はありません）
・本展開催年は「お守り刀展覧会」を開催しません。

※その他本展詳細は決定次第、順次お知らせいたします。

＜お問い合わせ先＞
公益財団法人日本美術刀剣保存協会
〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9
☎03-6284-1000（平日9:30～17:30）
全日本刀匠会
〒700-0904 岡山県岡山市北区柳町2-1-1
☎086-227-5721（平日10:00～18:00）

■春日大社国宝殿
〒630-8212 奈良市春日野町160
☎0742-22-7788
https://www.kasugataisha.or.jp/museum/

冬季特別展「秘められた大和の名刀 ―今明かされる大和の珠玉の名刀 春日の神々への至宝刀―」

国の始まりの地・大和（奈良県）は、最古の刀剣の製作地として名を馳せました。神代鍛冶の一人で刀匠の祖とされる天国は大和国の人と伝えられ、以来、大和国では連綿と作刀が続けられ、国宝・重要文化財をはじめとする数々の名刀が生み出されてきました。

この奈良の地に鎮座する春日大社は御創建以来、朝廷や摂関家の崇敬はもちろん、歴代の武家政権をはじめとする貴顕の崇敬厚く、数々の名刀が奉納されました。これらの刀剣は製作当初の状態を保つ貴重なものが多く、春日大社の刀剣を抜きに日本刀の歴史は語れません。

本展では、刀剣のふるさと・奈良に秘蔵された初公開を含む奈良県指定文化財の名刀を一挙に公開。そして春日の神々に捧げられた日本刀剣史を彩る国宝・重要文化財17点をはじめとする宝刀など、奈良の素晴らしい刀剣文化をお楽しみください。

会期：前期12月24日(金)～2月13日(日)
後期2月15日(火)～4月3日(日)

第12回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」開催のご案内

公益財団法人日本刀文化振興協会

1．趣　旨

① 公募によるコンクールとして、新たな基準に基づく厳正な評価を通し、日本刀に関わるすべての技術の水準向上を図り、斯界の人材育成に資する。

② 成果を展覧会として一般に公開し、総合的工芸品である日本刀の世界および日本刀文化について理解を深めてもらう。また、海外に向けて本展の情報を発信し、現代の日本刀・刀職技術を強くアピールする。

③ 刀文協の恒例の公益目的事業と位置づけ、作家・職方の登竜門として、また新たな伝統を蓄えてゆく場としての権威ある総合的展覧会とする。

2．会　場　坂城町 鉄の展示館
〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城6313-2
☎0268-82-1128

3．会　期　令和4年6月11日(土)～8月28日(日)
なお、授賞式・懇親会は開催初日を予定

4．部　門　作刀・刀身彫刻／研磨／刀装の3部門
〈特別公開部門〉“Sword Oshigata Art”

5．申　込　審査申込を予定される方は、別紙「審査申込書」に必要事項を記載の上、4月8日(金)までに送付のこと。

6．受　付　4月21日(木)～22日(金)の2日間、鉄の展示館にて

7．審　査　4月26日(火)～28日(木)の3日間

※詳細はホームページ等で逐次公表します。

〈特別展〉明治天皇ご生誕170年記念「現代刀剣作品展」（仮称）

左記の第12回展入賞作品を展示するとともに、一般社団法人日本甲冑武具研究保存会の協力を得て甲冑を展示するなど、日本刀に縁の深い明治天皇のご生誕170年を寿ぎ、日本の誇るサムライ文化を国内外に広報する機会とします。

1．会　場　明治神宮宝物殿（重要文化財）
〒151-8557
東京都渋谷区代々木神園町1-1

2．会　期　10月下旬～11月下旬（予定）

〈問い合わせ先〉
公益財団法人日本刀文化振興協会　事務局
〒115-0044 東京都北区赤羽南2-4-7
鷹匠ハイツ301号
☎03-5249-4440　http://www.nbsk-jp.org/

特別展会場の明治神宮宝物殿

令和4年1月15日発行　　刀　剣　界　　第62号

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に寄せて
日本刀が脚光を浴びる一年になる！

昨年のNHK大河ドラマは、幕末から明治維新を経て「近代日本資本主義の父」と称される渋沢栄一が取り上げられました。渋沢は令和六年に新一万円札の肖像画となることも決まり、日本を代表する顔となります。

この時代は刀剣史上では新々刀から現代刀への移行期で、過酷な冷遇期でもありました。大河ドラマでも刀剣が活躍する美談は少なく、戦いのシーンにおいて、官軍の西洋銃の前に旧幕府軍の日本刀は寂しいものでした。

本年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」では、平安時代から鎌倉時代初期にかけてスポットが当たります。鎌倉時代は、刀剣愛好家が競って収集する古名刀が製作されていた刀剣の黄金期と言えます。

鎌倉殿とは鎌倉幕府の棟梁もしくは幕府そのものを指し、『平家物語』では「鎌倉殿」とは源頼朝を指しています。

清和源氏の棟梁を鎌倉家・鎌倉殿とも呼称していたので、時代が下った室町時代の足利将軍家も、清和源氏の棟梁として当初は鎌倉将軍・鎌倉殿と呼ばれていました。足利三代将軍義満が京都室町に邸宅を構えてからは、室町殿と呼ばれるようになります。

大河ドラマでは、武士の世を盤石にした鎌倉殿の義弟である北条義時を中心とした人物構成のようですが、刀剣業界に関わる一人としては、刀剣武具類がどのような演出で登場するのか楽しみです。

ゆかりの地である鎌倉市は、鶴岡八幡宮に隣接する「鎌倉文華館鶴岡ミュージアム」を会場に、三月一日より「大河ドラマ館」を開設することになっています。

鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム（旧神奈川県立近代美術館）は、令和元年に国の重要文化財に指定されたのを機に、「鶴岡八幡宮の名刀 歴史に宿る武士の信仰」展を開催しました。

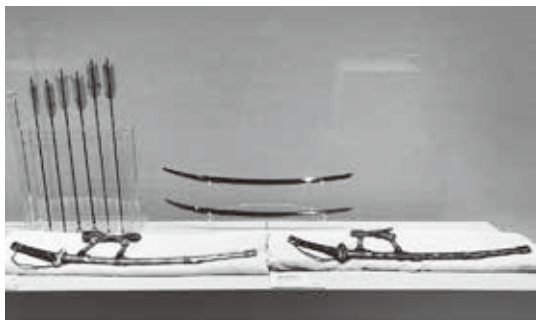
同館には武家が代々、武運を祈り奉納した多くの刀剣が神宝として所蔵されています。国宝六点、重要文化財十二点を含む神宝類の公開は、実に半世紀ぶりでした。その中に鎌倉殿寄進とされる沃懸地杏葉螺鈿太刀拵は甲・乙と二口あり、刀身には腰反りの強い二振の無銘の太刀が納められています（国宝）。これらの展示を通して、武士の信仰心の篤さが身近に感じ取れる展覧会でした。

大河ドラマ館の展示もどのようなものになるか、楽しみです。

鎌倉殿は関東の東国武士団に支えられていたため、東国武士が所領としていた各地においても大河ドラマ館が開設されるようです。地元の郷土史家の方などとともにそれぞれにわが町の歴史を振り返り、ゆかりの日本刀にも関心を向けてもらいたいものです。

令和四年は、さまざまな機会を捉え、組合員の皆さまと刀剣の持つ魅力をさらに発信していく年にしようではありませんか。

（嶋田伸夫）



頼朝寄進の沃懸地杏葉螺鈿太刀甲・乙（国宝）

「登録証問題」を考える 28

事例40　登録台帳とデジタル

デジタル庁が発足し、デジタル化が急速に進められている。新幹線やイベントのチケットの購入、問い合わせなど、すべからくデジタルで行われ、ペーパーレス社会となり、諸事務一切のスピード化が達成されつつある。一体、どんな未来になるのだろうか…。

さて、刀剣の登録証関係でもデジタル化が進められている。例えば、従来は、番号を伝えると、その番号の載っている登録台帳を引っ張り出してきて、やおら登録内容の確認をするという感じであった。当方は一度電話を切って、その後、かかってくるのを待つというような具合であった。が、現在は、パソコンのデータベースに登録台帳の情報が入力されており、番号を伝えると検索、たちどころに照合ができる、そんな教育委員会が増えてきた。簡便である。

これなどもデジタル化の一つであろう。大変便利である。しかし、問題がないわけではない。

過日、広島県登録の平造り脇指の登録内容を確認するべく、電話をかけた。すると、広島県の担当者Aさんから「月日が異なっています」という回答を得た。日付が異なっていても、内容は合っているので、登録証のコピーを添えれば所有者変更届出書を受理します、という例は少なくない。しかし、広島県に電話をしたスタッフによれば、どうやらそういう回答はされなかったらしい。

他の仕事に紛れているうちに、少し時間が経った。思い直して再び電話をかけてみた。最悪の場合、内容確認しなくてはならないと覚悟の上である。すると担当者Bさんは二、三度、電話を保留にし、何やら確認した後、明るくさらりとこう言った。

「すべて一致しています」

パソコンのデータでは確かに日付は異なっていたが、登録台帳に当たったところ、すべて一致しているというのである。内容の不備はあっけなく解消した。

そもそも最初から登録証に問題はなかった。不備は広島県のデータベースだったのだ。今回のケースでは、内容確認の手続きをし、内容確認に登録審査会へ行って調査し「全部合ってますけど、何か？」ということになったかもしれない。担当者Bさんがたまたま慎重で気が利く人だったおかげで、そうはならなかった。Bさんに感謝する次第である（実は、その数日後、担当者Bさんに、パソコン画像上の情報と登録証の内容のちょっとした違いを、台帳との照合により確認してもらった。とても誠実な対応をする人だと思った）。

登録情報のデータベース化は大いに進めてほしい。しかし、入力内容は正確さを期していただきたい。情報管理はパソコンがするが、入力処理をするのは人間である。そして、日々の内容確認業務の際に、情報を蓄積し、過去の入力データも修正して内容を充実していってほしいものだ。

さらに可能ならば、内容確認のための鑑定の申し込み等もデジタル化されればと思う。デジタル、コンピューター、人工知能…これらは人類の未来を拓く道具である。しかし、便利に使うには人の気働きが不可欠であろう。

事例41　登録内容の不備と訂正

刀剣の銘字は時に不思議なものがある。例えば、この刀。茎には「加州藤原住家吉作」とある。

通常なら「加州住藤原家吉作」という語順となるはずであるが、刀鍛冶の家吉は自らこのように切銘している。昭和四十一年静岡県の登録審査員はうっかり「加州住藤原家吉作」と記してしまい、登録証が交付された。

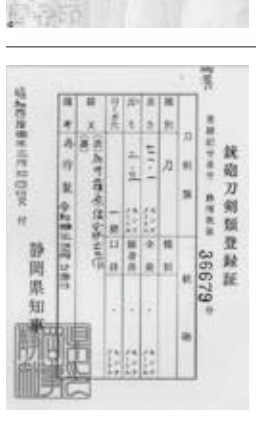
些細なミスではある。ところが、これを外国人が購入し、輸出鑑査証明を取得することになれば、些細とは言えなくなってくる。現物と銘文が異なるとして、輸出鑑査証明を出してもらえないからである。外国の方が「購入を検討する」というので、輸出鑑査証明の発行のことで、文化庁に問い合わせると、登録証を交付した県が、記載ミスと認めて文化庁に連絡をくれれば、輸出鑑査証明を出しましょう、ということであった。

そこで、静岡県の銃砲刀剣類登録担当者に電話で相談してみた。「登録証のコピーと現物の刀身、茎の写真を送ってください。検討します」という。そこで、登録証をスキャニングし、刀身の全体写真と茎の写真、さらに特別保存刀剣鑑定書のスキャンデータをメールに添えて、送信した。期待半分である。まあ、おそらく、いつものように「東京都に資料を回送しますので、現物確認審査を受けてください」という回答だろうなあと思っていた。

小一時間後、静岡県から電話があった。「申し訳ありませんでした。当方の記載ミスであることは明らかです」と言う。それで、「もし外国の方がお買いになった場合、輸出鑑査証明が取れるように、私どもから文化庁に連絡します」ということであった。しかも「もし不幸にしてご成約に至らなかった場合、おっしゃっていただければすぐに訂正再交付できるように取り計らいます」という。これにはびっくりした。なんという穏便で建設的な対応だろう。

刀は結局、外国人には売れなかった。残念だった。そこで静岡県の担当者の記憶が新しいうちに訂正再交付の手続きを踏むことにした。書類が送られてきて、そこにどこが異なるのか、記載し、送り返した。すると、数日後、新しい登録証が来た！

これまで、こうしたケースでは現物確認審査を経るのが普通だった。書類に必要事項を記入して、当該都道府県の担当者に送付し、東京都からの通知が来たら、期日に刀剣を持参し、長さ、反り、目釘穴の数、銘文などを調べ、東京都からの報告に従って記載ミスか否か判断し処理される。決して短くはない時間がかかるものである。



ところが今回、こちらが送信した情報を基に検討し、不備を認め、また、当方が嘘偽りの申し立てをしているわけではないと認めてくれたのである。おかげで無駄にも思える時間を浪費することなく、正しい登録証が交付されて助かった。何より刀が救われたのである。

対応してくれた担当者のSさんにお礼の電話をすると、Sさんは「昭和四十一年当時のつまらないミスで、販売の機会がふいになることになったら申し訳ありませんから」と言って笑った。

こういう柔軟で適切な文化行政が当たり前になることを願っている。

（登録証問題研究会）

NEWS & TOPICS

南紀重国、和歌山市に寄贈、展示へ

紀州徳川家の抱え鍛冶、南紀重国の刀一振が、和歌山市（尾花正啓市長）に寄贈された。

市在住の高木好枝さん（93）が、自宅の蔵に保管していたという。市役所での寄贈式で、高木さんは「兄が出征する際、父が『よく切れる刀を持たさないと』と軍刀に仕立てた。戦後、警察署から進駐軍に提出したら『美術的な価値がある』と返してもらった」と経緯を説明。「さびてしまうより、市のお世話になれてうれしい」と話した。尾花市長は「市の歴史や文化を知る上で、貴重な資料になります」とお礼を述べた。

刀は和歌山市博物館で三月十二日に開幕する「新収蔵品展」で展示される予定だ。

市博物館によると、「於南紀文殊重国造之」の銘があり、全長八七・六センチ。十一代にわたる重国のうち、特徴から見て三代の作刀と考えられるという。

NEWS & TOPICS

日本刀の聖地・瀬戸内市がオンラインで地域の魅力発信

観光庁が昨年二月に公募を行った「来訪意欲を増進させるためのオンライン技術活用事業」はその後、観光分野やデジタル分野に知見を有する有識者の審査を経て、十二を採択する事業に決定しました。その一つが「日本刀の聖地・瀬戸内市 オンライン文化振興オーナー育成プロジェクト」です。

これを受けて、岡山県瀬戸内市では「瀬戸内市文化振興オーナー育成プロジェクト実行委員会」を立ち上げ、瀬戸内市・㈱日本旅行・凸版印刷㈱・㈱テレビせとうちクリエイトが一丸となり、刀剣をテーマとして瀬戸内市の魅力拡大や誘客促進のプロジェクトに取り組むこととしました。

実施するオンラインコンテンツは①国宝「山鳥毛」の特別公開ガイドツアー、②日本刀の製作過程と伝統技術の公開、③瀬戸内市内のオンラインツアーの三つです。

私は③「日本刀の聖地・瀬戸内市おさふねオンラインツアー」の運営を担当させていただきました。

この一環として去る十二月十八日、三代目甲冑師の森崎干城さん、俳優・殺陣師の大岩主弥さん、能楽師の伶以野陽子さんと一緒にトークライブやエンタメ要素の入ったショーなど、刀剣にまつわるイベントを行いました。

一日限りのオンラインライブだったので、見逃した方からの再配信の依頼が多く、後日二回のアーカイブ配信を行いました。

甲冑や能、殺陣に関しては、初心者の方にもわかりやすく、興味を持ってもらえるように工夫をしたので、たくさんの好意的なコメントが入り、「和文化を伝承する」啓蒙活動としても大成功に終わったと思います。

これらの取り組みの狙いは、オンラインコンテンツによって「モノの魅力」と「ヒトの魅力」を伝え、瀬戸内市のモノとヒトに出会ってもらうきっかけ作りをするものであり、今回のプロジェクトでは瀬戸内市観光の熱心なファンを「オーナー」と表現しているのも特徴の一つです。

（㈱安東貿易・安東真理）

オンラインライブの上演風景（中央の和服姿が筆者）

NEWS & TOPICS

「平和島骨董まつり」で刀剣の展示販売が可能になった

㈱骨董市（竹日忠芳代表取締役☎〇三‐三七六七‐二二四一）が主催する「平和島骨董まつり」は日本で最も古い歴史のある室内骨董イベントで、次回で一八五回を迎える。全国から毎回二〇〇店舗以上の骨董アンティークディーラーが参加し、多くのファンを集めている。

同骨董市では事情により、久しく刀剣類の展示販売が行われてこなかったが、このほど取り扱いが可能となった。各地で開催される同社主催の骨董市でも、同様に展示販売が行われるという。

この背景には、当組合員である御園生敏明氏（ギャラリーみその）の主催者への長期にわたる働きかけがあった。同慶の至りであり、その労を多としたい。

今後の各地のイベント開催日程は次の通り。

〈平和島骨董まつり〉3月4～6日、5月3～5日、9月9～11日、12月9～11日。

〈有明骨董ワールド〉8月5～7日。以後毎年1・8月初旬に開催予定。

〈横浜骨董ワールド〉11月4～6日。

〈新潟骨董ワールド〉4月22～24日、9月23～25日。

詳細はホームページで。

https://kottouichi.com/

NEWS & TOPICS

「小竜景光」の再現と共同オーナープロジェクトが始動開始

㈱日本旅行（小谷野悦光代表取締役社長）はこのほど、クラウドファンディングサイト「つなぐむ」を利用し、岡山県瀬戸内市を代表する伝統文化であり、長船に代表される刀剣文化の魅力発信を目的に、長船の刀匠たちによる国宝「小竜景光」写しを製作するクラウドファンディングを開始した。

同社は、二〇二〇年から瀬戸内市・㈱テレビせとうちクリエイトと共同で「日本刀の聖地・長船プロジェクトチーム」に参画し、観光庁「誘客多角化のための魅力的な滞在コンテンツ等造成事業」「来訪意欲向上のためのオンライン技術活用事業」などに取り組んできた。

この度の、同社とテレビせとうちクリエイトを主体とした新たなプロジェクトチームは、コロナ禍で打撃を受けた観光産業の復興と、長船を中心とした刀剣文化の魅力を発信することを目指し、長船の刀職たちの力を結集して「小竜景光」を再現する。

プロジェクトが成功し刀剣が完成した際には、瀬戸内市の観光名所である備前長船刀剣博物館に寄贈し、博物館の一つの見どころとすることにより、多くの方に来訪してもらうという。

チャレンジ期間は二月十五日まで、目標金額は一千万円。「つなぐむ」専用サイトは https://nta.en-jine.com/projects/ntaokayama1

甲冑の話題⑭

（一社）日本甲冑武具研究保存会

コロナ禍のため、私どもの会もこれまでのような会場に集まっての月例研究会（以下、例会）を催すことが困難になりました。そこで、それに代わるものの一つとして、オンライン例会を開催しようということになりました。今年度中は試行期間ということで試せそうなアイデアを実際にやってみて、その結果どうだったかを検証しています。

なお、事情は異なりますが、海外支部では既にウェビナーとして本格的に稼働しています。

※ウェビナーとは、ウェブ（Web）とセミナー（Seminar）を合わせた造語で、インターネット回線を通じてオンラインで行うセミナー、またはそのためのツールを指します。

今回は、去る九月五日に開催された二回目のオンライン例会を通じて見えた課題についてお話したいと思います。

この時は「馬の博物館」で開催されていた特別展「サムライアーマー」の様子を動画で配信しました。当展示会では出品物の多くが当会会員から提供されていたこともあったので、各展示物の解説については、図録に書かれていること以外の見所や興味深い話を出品者に伺うことを試みました。当然ながらある種の忖度も必要ですので、それを探る意味もあります。

これらのことから、展示会の様子を紹介する場合は、主催者や出品者と事前に申し合わせができていた方が取材の日程などに余裕が持て、展示解説についてもより内容を深められると思いました。

配信では私たちはZOOMを使用しています。配信したものを録画して確認したところ、配信元では動画はそこそこ滑らかに動いていましたが、見る側ではカクカクした動画になっていました。これは現在の通信環境等を考えると、ある程度仕方のないことと思います。しかし、画質は大きく変わりませんでした。

また講演時間が一時間十五分～三十分を超えると、記録媒体の容量の都合上画質を落とす等の対応の検討が必要になり、このことから講演を録画して配布する場合は画質のことも考慮し、講演時間を設定する必要があることもわかりました。

配信用の動画を製作した立場としては、決して他人様にお見せできるようなものではなかったのですが、それでも今回の試みをしたことで今後の叩き台程度にはなったのではないかと思います。もちろん今後は、他分野の配信動画なども参考にする必要があると思いました。

（一般社団法人日本甲冑武具研究保存会理事　佐々木亮）

組合員の大西孝男さん（大西美術刀剣）が埼玉版で紹介されました。

赤山街道大宮道　大西美術刀剣

埼玉の刀屋の草分け？

街道は、一部、国道463号と重なる区間がある。「大西美術刀剣」（さいたま市緑区大間木）は、その両方に面している。店内に入ると、ショーウィンドーに二十数本の刀がずらり。短刀や長刀、年代モノや現代刀など多岐にわたる。値段も十数万から1千万円近いものまで幅広い。

店主の大西孝男さん(81)。「若いころ、兄がアメリカで買い付けた刀を私が日本に卸して売ったのが始まり。いわば刀の『里帰り』だよ」。約50年前に独立。当時はあまり売れなかった現代刀を店で扱い、職人とイギリスで展示会を開くなど、「文化的にも貢献してきた」と胸を張る。

最近は若い女性客もよく訪れるという。「指輪といっしょでしょ。ほしいと願えば、ローンを組んで買う人だっている」。異なる刀の形状を楽しむ人、好みの装飾品を集める人、これぞの1本を見つけてお守りにする人など、時代によって楽しみ方は人それぞれだ。

埼玉県内には常連客が独立した店が数店舗あり、「埼玉の刀屋は、みんな私の弟子みたいなもの」と笑った。記者を迎えてくれたのは、「刀を見に通いすぎて、そのまま店員になった」という50代の女性だった。（黒田早織）

刀の手入れをする大西孝男さん＝さいたま市緑区

新刊紹介

山田晴比古 著『刀と鐔の玉手箱―きっと見つかる刀剣愛好のヒント』

本書は熊本県在住のベテラン愛刀家の著であるが、実に珍しい点をいくつか発見した。

まずは著者名が表紙にも扉にもなく、奥付一カ所のみに表示されていること。誠に奥ゆかしい。また、定価はどこにも見当たらない。自家版に値付けをするなど、おこがましいと言ったところか。

タイトルも実にユニーク。しかし、サブタイトルを見て、本書の真意が少しわかりかけてきた。

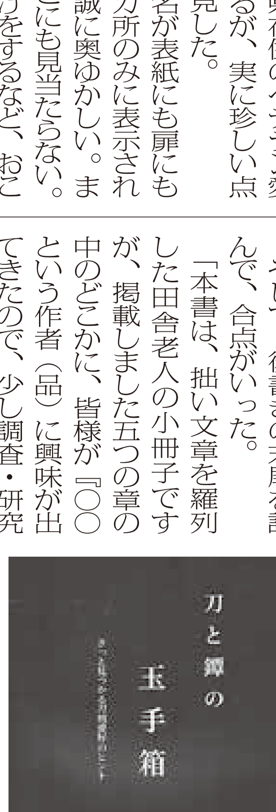
中身は無論、肥後の刀や鐔にも紙幅を割くが、刀剣・鐔・刀装具・古文書の全四章に長年培った蘊蓄が傾けられ、興味をそそる。序章に一匹獅子目貫を取り上げたのにも、著者らしさが現れている。

そして、後書きの末尾を読んで、合点がいった。

「本書は、拙い文章を羅列した田舎老人の小冊子ですが、掲載しました五つの章の中のどこかに、皆様が『〇〇という作者（品）に興味が出てきたので、少し調査・研究してみようかな』と思われるヒントが、一つでも二つでも見つかりましたら、ぜひ、そこ入り口にして、刀や刀装具の世界に足を踏み入れて欲しいと願っております。」

A4判、一六六ページ。頒価三〇〇〇円（税・郵送料とも）。

申し込みは〒861‐0161熊本市北区植木町鞍掛一五八九‐五、☎〇九六‐二七二‐五四一八へ。



古銭・切手・刀剣　売買　評価鑑定
㈱城南堂古美術店
代表　田中勝憲
〒153‐0051
東京都目黒区上目黒四‐三一‐一〇
TEL　〇三‐三七一〇‐六七七六
　　　〇九〇‐三二〇八‐九六一二
FAX　〇三‐三七一〇‐六七七七

質問箱　第十三回

回答者◉冥賀　吉也

「同田貫について詳しく教えてください」という質問が寄せられました。

ここ数年、同田貫の刀の人気が非常に高まり、市場でもかなり高値で取引されるようになりました。私は詳しくないのですが、「刀剣乱舞」という刀剣を擬人化したゲームやアニメの中に、同田貫正国が登場することが大きなきっかけになったようです。

同田貫は、昔から実戦向きの刀として人気があったと聞いています。加藤清正が文禄・慶長の役で朝鮮に出兵した折、配下の多くの武将が携えた同田貫が見事な切れ味を示したという話や、明治二十一年（一八八八）、明治天皇の御前で、榊原鍵吉が兜を切った刀が同田貫であったという話などは有名です。

また、映画やテレビドラマにも同田貫の刀は出てきます。「子連れ狼」の主人公、中村錦之助演じる拝一刀や、「荒野の素浪人」の中で、三船敏郎演じる峠九十郎の差料が同田貫でした。

●加藤清正の抱え工となる

同田貫一派の活躍年代は、室町時代最末期の天正～慶長末年ごろの約四十年間です。

鍛刀地は、最初のころは刀の銘文にある通り「九州肥後同田貫」でした。すなわち、現在は菊池市に属す菊池郡稗方村同田貫であり、当時は未延寿の鍛冶場があった所と言われています。その後、加藤清正の抱え工となった天正十六年（一五八八）ごろ、現玉名市の亀甲村や伊倉南方村に集団移住したと思われます。

主な刀工としては、正国（信賀・上野介同人か）、清国（国勝同人か）がおり、俗名のような銘で、例えば上野介・又八・（源）左衛門・兵部・次兵衛などと切る刀があります。最盛期には二十人前後が活躍していたと考えられます。

同田貫一派にとって最大の転機は天正十六年、加藤清正が佐々成政に代わってこの地の領主になったことでした。清正の抱え刀工集団となって日夜作り続け、常備刀として熊本城へ大量に納めたと考えられます。

しかし、慶長十六年（一六一一）の清正の死去以後、一派の作品は徐々に少なくなり、慶長末年ごろにはほとんど見られなくなってしまいました。このことは、寛永九年（一六三二）に熊本二代藩主加藤忠広が改易になり、細川忠利が熊本藩主となったことが大きく影響していると考えられます。

●作風は高田鍛冶に似る

同田貫一派の作品の多くは刀であり、脇指や短刀は少ないです。しかし、二尺を超す長寸の大身槍が比較的多く残されています。一尺五寸～七寸ぐらいの薙刀もまま見受けられます。

上出来のものには「九州肥後同田貫又八」などと長銘に切り、「九州肥後同田貫」と流派銘のみのものも多く、あるいは銘を入れていない生無銘のものも多くあります。

裏年紀の入ったものはきわめて少なく、天正年紀は数振のみであり、慶長年紀のものもさほど多くはありません。

次に、刀の作風を記します。

鎬造りで二尺四、五寸と長寸になり、身幅広く元先の幅差少なく、重ね厚く、庵棟、中切先延びるもの、あるいは大切先となり、反り浅く頑丈な姿です。

地鉄は板目やや杢交じり、流れて肌立ち、かす立つ感じとなります。刃文は焼き幅広く、小湾れ・互の目・小乱れ交じり、総じてこずむ感あり、むら沸付き、匂口は締まり心となります。帽子は乱れ込み、先小丸、尖るもの、深く返り棟焼きのあるものがあります。

中心は、鑢目浅い勝手下がりで、中心尻は棟方が浅く、刃上がり栗尻となり、棟寄りに太鑿で大ぶりの長銘を切ります。

以上が同田貫の作風の大まかな特徴ですが、姿に多少の差異は見られるものの、高田鍛冶の作風に顕著な類似点の多いことが挙げられます。図の①②をご参照ください。

●源流は高田鍛冶か

そこで、同田貫の作風がなぜ高田鍛冶に似ているのか、仮説を立ててみました。

当地の豪族菊池氏は鎌倉時代後期に来派の延寿国村を迎え入れ、それ以来、室町時代後期の末延寿に至るまでの約二百五十年間、延寿一派が主流でした。延寿の刃文は直刃が基調です。ところが、延寿の流れを汲むとされる同田貫の刃文は、全く異なる乱れ刃です。それは天文二十三年（一五五四）、菊池氏が大友義鎮（宗麟）に滅ぼされたことに起因すると考えられます。

本紙前号と前々号で豊後高田刀を取り上げましたが、そこで、宗麟の絶頂期には九州の半分六カ国を領有し、配下の有力武将を置いて統治させ、同時に輸出用の刀剣を領内各地で製作させたことに触れました。

ここ菊池の地でもその後、弘治・永禄・元亀・天正の中ごろまで、豊後の竹田や大野から優秀な高田鍛冶を呼び寄せて、土着の同田貫刀工たちに技術指導を行わせ、豊後刀として輸出していたとも考えられます。

中にはその後もこの地に残り、同田貫刀工の一員になった高田鍛冶もいたかもしれません。

それ故に、同田貫の作風は地刃の出来はもちろんのこと、中心の形・鑢目・中心尻までが高田刀に近い作風になったのではないでしょうか。

その後、天正時代の後半から大友家に解放され、高田鍛冶の作風をさらに進化させ、同田貫独自の作風を開花したと考えられます。

●同田貫と高田鍛冶の差異

鑑定書の中で、無銘刀に「肥後同田貫」と流派のみ極められることがあります。この場合、生無銘のものと大磨上無銘のものの両様がありますが、同田貫一派の作風は在銘のものであってもきわめてよく似ています。それは、共同の仕事場で協力し合って製作したからでしょう。

前述の通り、高田刀と同田貫はきわめてよく似ていますが、活躍年代の差で姿にわずかな違いが感じられます。

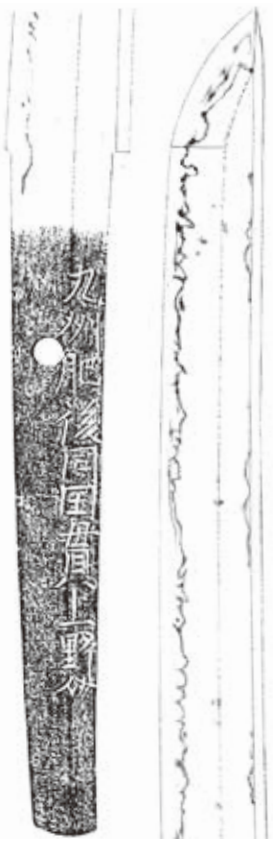
平高田鍛冶は室町時代の刀工であり、末古刀の姿に共通する先反りがつくこと、さらに鎬地を盗む大きな見所があります。

これに対して同田貫は、主に慶長年間が活躍時期であり、慶長新刀然とした豪壮な体配が多く、反りは少なめで、鎬幅は広めとなり、鎬地を盗むことはありません。

①　刀　豊州高田住平鎮種（平高田）

②　刀　九州肥後同田貫上野介

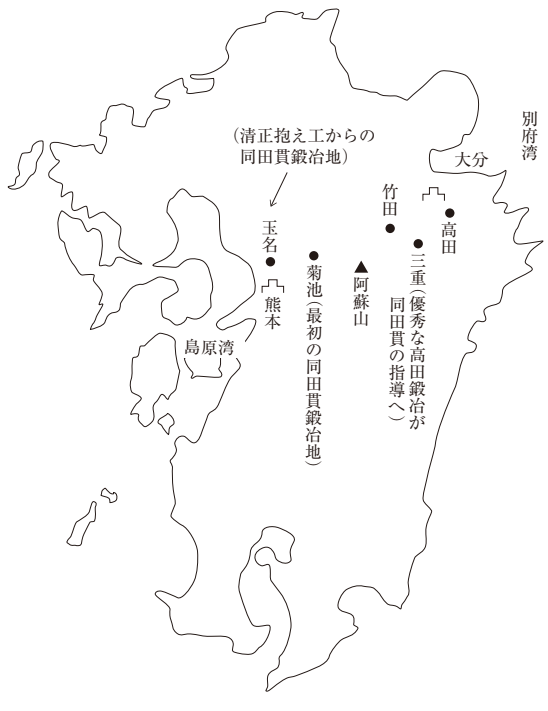
③　刀　九州肥後同田貫上野介



④　刀　九州肥後同田貫上野介（慶長十六年紀）

⑤　刀　豊前高田住藤原行長

高田鍛冶と同田貫鍛冶の位置関係



天文	23	一五五四	
弘化	③		
永禄	⑫		
元亀	③		
天正			
	6	一五七八	同田貫一派、豊後刀匠の技術指導を受け豊後刀として作刀か？
	14	一五八六	耳川の戦　大友宗麟　島津軍に敗れる
	15	一五八七	秀吉　九州平定
	16	一五八八	大友宗麟　津久見にて死去（58歳）
			加藤清正　隈本城に入る
			同田貫一派　菊池の稗方より玉名に集団移住か
	18		大友（義統）家滅亡
			関ヶ原の戦
			加藤清正　死去（50歳）
文禄	2	一五九三	同田貫上野介の慶長十八年
慶長	5	一六〇〇	**その後同田貫一派姿を消す**
	16	一六一一	熊本二代藩主加藤忠広改易となる
元和	⑨	一六二三	細川忠利熊本藩主となる
寛永	9	一六三二	

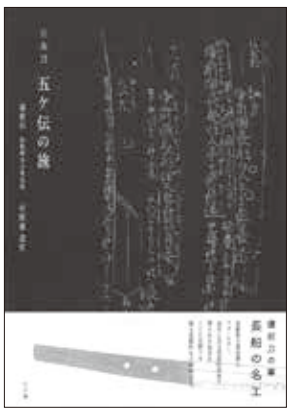
同田貫一派の全盛期

ブック・レビュー　BOOK REVIEW

自作の押形を駆使して伝わり来る名刀観

『日本刀五カ伝の旅 備前伝 長船鍛冶の黄金期』

田野邉道宏 著　定価四〇〇〇円＋税　㈱目の眼



「この人にしか書けない本だ」。田野邉道宏先生の新刊『日本刀五カ伝の旅 備前伝 長船鍛冶の黄金期』（以下、『備前伝』と略す）を読んでそう思った。

『山城伝』『大和伝』に続いて出版された『備前伝』は愛刀家待望の一冊である。副題に「長船鍛冶の黄金期」とあり、テーマは光忠に始まる長船派。

備前刀の歴史は平安・鎌倉初期の古備前から始まり、以後、鎌倉初期の古一文字、中期の福岡一文字、後期の吉岡一文字、南北朝期の兼光・長義・元重、室町初期の応永備前の盛光・康光、中期の則光・祐光、後期の忠光・勝光・宗光・清光・祐定、新刀期の上野大掾祐定の面々、新々刀期の祐永や祐包らと続く。歴史は長く、刀といえば、「長船」が連想されるくらいに知名度も高い。本書は長い備前刀史の中から、鎌倉から南北朝の長船に絞って執筆されている。

備前長船の刀工と作例について記した書籍は古くからある。例えば、本間薫山博士の『日本古刀史』にも長船の名工と作品が説明されている。『日本刀大鑑 古刀篇二』、佐野美術館『長光展図録』なども備前刀研究の必読書というべきであろう。近年の『長船町史刀剣編図録』も長船の刀工と作品の勉強には便利である。

田野邉先生の今回の『備前伝』も、作例を示して、刀工と作品について説明する、というスタイルは同じである。しかし、従来の書籍とは全く異なる個性を有している。一つは、紹介されている国宝・重要文化財・重要美術品クラスの名刀のいずれも、ご自身が実際に手に取って姿・地鉄・刃文・銘字をつぶさに観察・鑑賞したものであり、そしてご自身が描かれた、作品から発せられている気すら伝わり来るような押形が載せられていることである。

この押形こそ本書の特色であり、最大の魅力である。

もう一つは解説文である。古剣書を紐解き、旧説を検討し、その上で田野邉先生が実見した作例を引用して、刀工の実像に迫る試みが随所になされているのだが、文章は平易に書かれて大変読みやすい。田野邉先生と話をしたことのある方ならご理解いただけると思うが、先生は刀と刀鍛冶のことを、とても楽しそうに話される。聞いているこちらも「ワクワク」してくる。本書も読み進めるうちに、なんだか「ワクワク」してくる。

そんなワクワク感を喚起する独特の文章は「田野邉節」と言うべきなのであろうか。

さて、本書で紹介された作品はいずれも興味深く、知的好奇心を刺激するものである。

筆者が歴史との絡みで興味を覚えた作の一つは「長船長光　文永十一年十月廿五日」と切銘された上杉家伝来の高瀬長光の太刀。「文永の役で元・高麗軍が大暴風雨により壊滅したことから、異国降伏の祈禱を行った社寺にその戦勝報告がなされた日ではないかと推測する向きもあります」とある。

この太刀は、本欄で以前紹介した小川盛弘先生監修『日光二荒山神社名刀 御神宝』でも触れられていた。蒙古襲来については服部英雄先生の名著『蒙古襲来』があるが、こうした長光の興味深い作例は、文献からは伺い知ることのできない歴史の一面を照らすものであり、太刀の全容について詳述された本書が、鎌倉後期の歴史の研究に寄与する可能性はあろう。

末尾のボーナストラック「押形の話」も見逃せない。田野邉先生の鮮明で美しい押形は「五カ伝の旅シリーズ」の最大の魅力の一つである。押形はどのように描かれるのか。刃文を照らすライトは何がいいのか、筆記用具は何があるのか。最も大切な心得とは何か。そして心得と技術を田野邉先生はどのようにして錬磨してきたのか。

本間薫山博士や佐藤寒山博士とのエピソードを交えての説明は、先生の若き日の一齣を垣間見せており、大変興味深い。

さて、田野邉先生と読者の日本刀五カ伝の旅。次の停車駅にはどんな風景が広がっているのだろうか。

（小島つとむ）

■田野邉道宏（たのべ・みちひろ）
一九四五年鹿児島県鹿屋市生まれ。鹿児島大学法文学部卒業。（財）日本美術刀剣保存協会学芸員として勤務し、学芸部長・常務理事・刀剣博物館副館長を歴任。重要・特別重要・保存・特別保存刀剣審査員。文化庁刀剣登録審査委員（東京都）。著書に『日本刀五カ伝の旅 山城伝』『同 大和伝』『名品刀絵図聚成』、監修書に『図鑑 日本刀集美』『日本刀物語』がある。

時の権力者との名刀を介した壮絶な闘い描く

『本阿弥名刀秘録』

小田切道明 著　大越弘道 原案・監修　定価一六五〇円（税込）　小学館

『本阿弥名刀秘録』は私たち刀剣商にとって非常に興味深い劇画です。

時は天正十五年（一五八七）十月、大坂城本丸御土蔵（刀蔵）にいる本阿弥光徳に、関白秀吉から召し状が来る。その理由は、藤四郎吉光なる無銘の短刀に拵を付けよとのことであった。その極めが吉光か来国光かで秀吉と本阿弥光徳がもめていたところを、千利休が彼独特の言い方で秀吉を丸め込み、光徳を救う。その時、利休は光徳にこう諭す。

「のう光徳はん、この際一つ云うておかなあかん事がおます。殿下は今や位人臣を極め、天下兵馬の権をもその手中に収めはった。その御威光に靡かん者は一人とておりしまへん。代々続きはる本阿弥家の〝法〟を頑なに押し通すんも結構やが、世には〝時流〟云う物がおます。それに逆ろうては何れ己の身ィ滅ぼす事にも成り兼ねまへん。そこの所、良う弁えておきなはれ」

まさしくこの物語のテーマではないでしょうか。横暴な関白殿下秀吉との付き合い方を語っています。そして、この時から三年半もしないうちに千利休自身が秀吉に切腹を命じられ、弁解も命乞いもせずに死んでゆきます。利休は光徳に理を諭しながら、自らは死を選んだのでしょう。

この切腹の原因はさまざま言われていますが、本当のことはいまだ不明で、千利休のみぞ知るです。

光徳もこの後、数多くの太刀・刀を秀吉の暴力的わがままから守ることをテーマに、物語は続いていきます。

第三話の「伝光世」は、光徳が秀吉の命令で徳川家康の下へ赴き「伝光世 妙純伝持 ソハヤノツルキウツスナリ」（現在は重要文化財）を発見したが、秀吉には言わずに、徳川家の家宝の刀にされたしと鑑定する回である。

家康との会話の中で、本阿弥家の鑑定について、「生まれました時より家業の刀剣に馴染み、目利きに関する口伝の秘事を十二、三の時から一言も漏らさず相伝を受け、一腰を十日も二十日も手に持ち、神髄を見極めねばと一心に集中し、御刀それぞれの履歴を呼び起こすべく、日々精を出しております。……世に目利きは数多あれど、私めほど数多くの名刀を拝見してきた者はないと自負しております」

これに対し家康が、「経験を積んだ熟達者が優れると申すか？　では業に長け、その上、足利将軍家に仕えた格式高い本阿弥家ならば、相手の知識のないのにつけ込んで、刀を不当に安く買い叩いたり、あるいは刀工の国や流派を偽るなど、造作もないことであろう」とたたみかけるが、光徳は、「本阿弥が良い物をけなして己の利益を得ることは、断じてございません。なぜならば『良い物を軽んずれば先祖の冥加も尽き』と信仰し、常に目利きの吟味や詮索に厳しく臨んでいるからでございます」と論破します。

このやりとりに近いことは、現実にあったような気がします。だからこそ本阿弥は徳川（江戸）時代になっても刀剣極め所を仰せつかり、禄を食むことになったのでしょう。

われわれ現代の刀剣商の間でも、本阿弥家の折紙は、光徳―光室―光温―光常―光忠と、十三代（享保十年ごろ）までは珍重されています。

しかしながら、そういうもうまく行く訳もなく、横暴な秀吉のわがままを聞かざるを得ないこともある。第四話の「一期一会」で、短刀の名手粟田口吉光唯一の太刀を磨り上げろとの注文に対して、「この太刀は吉光の最高傑作。それを磨り上げるなど、神仏をも恐れぬお振る舞い。殿下は唯一無二の霊刀を冒瀆なさるおつもりでございまするか」と言い放ってしまいます。

秀吉は「今は予が天下じゃ。予の物をどう致そうと予の勝手であろう。できぬとあらば覚悟は良いな!?　貴様の代わりなぞ幾らでもおるわ」と怒り出してしまいます。

埋忠明寿を訪ね、磨上を依頼するが、吉光故に当然拒絶される。光徳は「天下人のご意向とあれば悠揚自在、是非もない。本阿弥の本意としては、天下の名刀を磨り上げるなど身の程知らず。しかし、時の権力者の意思であれば代わりの工人に回るのが現実」と。

これが本阿弥光徳と千利休の違いでしょう。本阿弥は利休の教えに従い、その後も江戸・明治・大正・昭和を生き抜いてきました。

ただ、戦後、日本刀の鑑定は本阿弥家に代わり、本間薫山先生―佐藤寒山先生ラインの台頭により、鑑定は日本美術刀剣保存協会の一人勝ち状態となりました。

（持田昇宏）

日本刀・刀装具
販売・買取
美術刀剣松本
松本 富夫・松本 義行
TEL.04-7122-1122
千葉県野田市清水199-1　刀剣松本　検索

大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋二－七－一
TEL　〇六－六六三一－二二一〇
FAX　〇六－六六四四－五四六四

美術刀剣、小道具、武具類の売買、加工及び御相談承ります

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶雄
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
http://www.iidakoendo.com

アオバ企画㈱
高橋一
〒130-0012
墨田区大平四－一九－二－一三〇八
TEL　〇三－三六二二－二三三一
FAX　〇三－三六二二－二二五一
メール　aobakk@pj8.so-net.ne.jp

日本刀の
江州屋
名品・名刀を販売
店主 小暮 舜一
〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町沓掛80－1
TEL 0749-42-2736
携帯 090-3162-7641
http://www.goushuya-nihontou.com

美術館・博物館訪問

日光東照宮宝物館・二荒山神社中宮祠宝物館

名刀を伝える日光二つの宝物館

日光に刀剣展示を拝見に行ってきたので、今回はそのご紹介です。

日光東照宮宝物館は、平成二十七年の東照宮四百年式年大祭に際し、新しく建立された宝物館です。

同館では、御祭神徳川家康公の遺愛品をはじめ、朝廷や将軍家・大名家からの奉納品、祭器具などを収蔵・展示しており、国宝に指定されている助真や国宗の太刀は特に有名ですが、ほかにも多数の指定刀剣などを収蔵し、展示しています。

今期は家康公御着用の「南蛮胴具足」（重文）をはじめ、「剣 久国／弘安三年三月日」（重文）などの貴重な刀剣類が展示されており、徳川家奉納の名品の数々には同家の誂えた時代拵が完備されており、圧巻です。

http://www.toshogu.jp/shisetsu/houmotsu.html

次に、東照宮からいろは坂を越えて中禅寺湖のほとりに鎮座する二荒山神社中宮祠宝物館を訪ねました。

ここでは古く奈良時代、天応二年（七八二）に開山した同神社の至宝の数々を展示しており、「国宝 大太刀 備前長船倫光」や日本最大の大太刀として知られる「重要文化財 大太刀 祢々切丸」などが高名ですが、貴重な中世の蛭巻鞘拵などが伝世しているのは神社ならではであり、未指定品の中にも製作が平安時代にさかのぼる剣などの優品が数多く展示されています。

館内では新たに刊行された同神社の至宝を選りすぐった宝刀図譜『名刀 御神宝』が販売されていますので、来館された方には是非お勧めします。

なお、宝物館があるのは東照宮隣接の本社ではなく中禅寺湖の中宮祠ですのでお気をつけください。

http://www.futarasan.jp

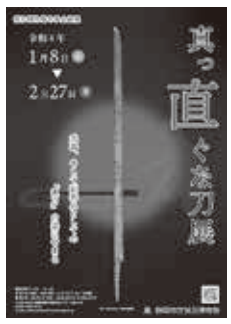
（飯田慶雄）

二荒山神社中宮祠宝物館

催事情報

■登呂博物館

〒422-8033 静岡市駿河区登呂5-10-5　☎054-285-0476
https://www.shizuoka-toromuseum.jp/



冬季企画展「真っ直ぐな刀展」

昨今、戦国武将に関連した日本刀が注目を浴びて、反りの見事な日本刀（湾刀）はメディアなどで数多く紹介されています。

それでは、日本刀の源流には、先史・古代に中国・朝鮮半島から伝わり、日本で広まった反りのない「直刀」があることをご存じでしょうか。古墳・奈良時代は戦いの道具としてだけでなく、権力者や豪族などの人物の墓に入れる副葬品としても直刀が使われ、権威の象徴にもなっていました。直刀がよく使われた古墳時代を中心に、武器、そして副葬品として用いられた「真っ直ぐな刀」の魅力に迫ります。

会期：1月8日(土)～2月27日(日)

■真田宝物館

〒381-1231 長野市松代町松代4-1　☎026-278-2801
https://www.sanadahoumotsukan.com/

企画展「松代藩士の刀剣」

当館は真田家12代当主・幸治氏から譲られた大名道具を収蔵・展示する博物館として、1969年（昭和44年）に開館。真田家から譲り受けた収蔵品は武具・刀剣・調度品・絵画・古文書などで、特に古文書が多く総数はおよそ５万点におよびます。今回は、家老・矢沢家伝来の刀をはじめ、藩士の刀・槍・刀装具など初公開を含め30点余りを展示します。

会期：1月19日(水)～2月11日(月)

■江戸東京博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1　☎03-3626-9974
https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/

企画展「徳川一門―将軍家をささえたひとびと―」

長き戦乱の世に終止符をうち、慶長８年（1603）に江戸幕府を開いた徳川家康。以降、260余年にわたって泰平の世が続いた江戸時代は、家康を始祖とする徳川将軍家の治世によってもたらされました。この徳川将軍家は、どのように築き上げられたのでしょうか。

江戸幕府の将軍は15代続きました。しかし、初代家康の直系は４代家綱で、徳川宗家の血筋は７代家継で絶えています。そのため、御三家のひとつである紀伊家から吉宗が８代将軍として迎えられ、以降は11代家斉が一橋家から、14代家茂が紀伊家から、そして最後の将軍15代慶喜は一橋家からと、御三家・御三卿から将軍職を継承した人々が、将軍家を支えていきました。将軍家存続の背景には、こうした「外」から将軍家に入った徳川のひとびとの存在が大きいと言えるでしょう。

本展では、このような将軍家を支えた徳川のひとびとの活躍を、徳川宗家に伝来するゆかりの品々を通してご紹介します。

会期：1月2日(日)～3月6日(日)

■北野天満宮宝物殿

〒602-8386 京都市上京区馬喰町　☎075-461-0005
https://kitanotenmangu.or.jp/

雪月花の三庭園再興記念「雪月花と宝刀の煌き」

かつて日本において「花」と言えば「梅」を指していた時代がありました。北野天満宮の御祭神菅原道真公が愛した梅の花は、今もこの地で花開き、約50種、1500本の目をご覧いただくことができます。

令和の世に、雪月花の三庭園が再興されたことを記念し、宝物殿においても、北野天満宮の名宝のうち雪月花にまつわる御神宝を展示します。

また、本年は大河ドラマで「鎌倉殿の十三人」が放映されます。源氏の重宝として名高い太刀鬼切丸（髭切）をはじめ、鎌倉時代に打たれた刀剣やこの時代の世相を反映した御神宝《北野天神縁起絵巻》（平成記録本）などを時代背景とともにご紹介します。

会期：1月1日(土・祝)～6月26日(日)。
３期に分け展示。展示替え・メンテナンス期間は休館

旅のつれづれに 12

松山から今治へ、驚き続きの旅

九月初旬のある日のこと、どこが新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言で、どこがまん延防止等重点措置なのか、よくわからないまま、愛媛県松山市と今治市でのH美術骨董館による古美術骨董鑑定ツアーに参加しました。

初日は、松山空港からタクシーで今治市まで移動します。今治と松山がどういう位置関係にあるかもわかっていなかったので、タクシーに乗って初めて北の方に行くんだなと理解しました。

最初にビックリしたのは、もうすぐ今治駅だなと思ったところで、この町一番の高台に「加計学園」の巨大なロゴが現れたことです。そうか、ここだったんだ、と思うと、何となく感動してしまいました。いろんな意味で。

今治駅から一キロぐらいの距離でしょうか、ホテルに着きました。フロントで今治城の場所を尋ねると、徒歩五分ということなので、早速行ってみました。

今治城の立派さには二番目のビックリです。

建てたのはあの藤堂高虎で、関ヶ原の戦いの戦功により、宇和島七万石から今治二十万石に加増されました。慶長七年（一六〇二）から五年の歳月をかけて、同十二年ごろにほぼ完成したと言われています。

現在は内堀を残すだけですが、当時は中堀があり、海水を入れ込んだ港湾があり、さらに外堀は海と直結しているというお城だったそうです。

この城構えは讃岐の高松城にどこか似ているなと思ったら、やはり三大水城に指定されていました。もう一つは、黒田官兵衛が築いた豊前中津城だそうです。現在の大分県中津市に鑑定旅行で行けるかな？

寛永十二年（一六三五）高虎が津藩に転出、伊勢国桑名藩から松平定行が伊予松山藩十五万石に転封となり、同時にその弟・定房が伊勢長島から三万石で今治に入りました。つまりは、地続きの土地を兄弟で知行地としたわけです。ということは、東は讃岐の高松城、西は今治城に、両松平家を置くことで瀬戸内海の平和も守れるというわけです。

翌日は鑑定でしたが、会場になっている場所を見て三番目のビックリ。今治タオルの総本店に過去から現在に至るまでの展示場が付いている立派なもの。都内や埼玉県でもこの手の商業施設はよく見ますが、その何倍も大きく、品数もたくさんそろっていました。小生も何点か買ってしまいました。

鑑定でいらっしゃったお客さまから伺ったのですが、大山祇神社は今治市だということで、四番目のビックリです。なるほど、神社のある大三島は今治市です。

そういえば、小生が杉江美術展に入社してから四、五年目ぐらいのころ、当時、刀剣青年会の代表幹事をなさっていた杉江雄治社長に、青年会の夏の研修旅行で大山祇神社と厳島神社に連れていってもらいました。そのころはまだ、国宝だ重文だと言われてもその価値の重さがよくわからず、もったいないことをしたと思います。

その後、松山に移動すると、コロナによる規制が厳しく、道後温泉は閉館。旅館での夕食にお酒は出してくれたのですが、「このお酒はお客さまが自分で買ってきたものだということにしてくれないと困る」と言われてしまいました。

翌朝、早めに旅館を出て松山城へ向かうゴンドラに乗ろうとすると、それも営業を中止していました。五番目のビックリです。

何だかビックリの多い旅でした。

（持田昇宏）

再建されて勇姿を映す今治城

令和4年1月15日発行　　刀　剣　界　　第62号

催事情報

■森アーツセンターギャラリー

〒106-0032 東京都港区六本木6-10-1　☎03-5777-8600
https://macg.roppongihills.com/jp/

ボストン美術館所蔵
「THE HEROES 刀剣×浮世絵―武者たちの物語」

世界最高水準の日本美術コレクションを誇るボストン美術館所蔵品の武者絵と秘蔵の刀剣が里帰りする展覧会を開催します。

武者絵は『平家物語』のような軍記物語や、武勇伝説に登場する英雄（ヒーロー）を描いた絵のことを言い、江戸時代には武者たちを描いた浮世絵が、人々の人気を博しました。

本展では、世界有数の浮世絵コレクションで知られるボストン美術館の所蔵品から、菱川師宣、北尾政美、歌川国貞、歌川国芳、歌川広重、月岡芳年など、有名絵師のクールで迫力のある武者絵118点を物語の時代に沿って、ご紹介します。武者絵と刀剣の鐔に描かれた共通のイメージを解き明かしながら、さまざまなヒーローたちの活躍をご覧いただけます。

また、浮世絵版画のコレクションで広く名前が知られたビゲロー・コレクションや、近年新たに加わった刀剣の世界的コレクターとして知られるウォルター・コンプトン氏の寄贈品などから、日本最古の名工といわれる安綱の銘の太刀や、中世日本に多くの名匠を輩出した長船派の名刀などが出品されます。ボストン美術館の刀剣が、日本でまとまって紹介されるのは約半世紀ぶりとなります。

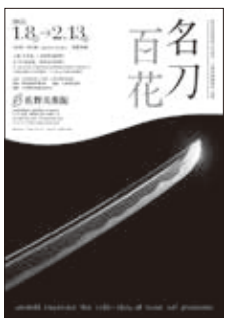
そのほか、膝丸、蜘蛛切、薄緑などさまざまな名前を持つ源氏の重宝「太刀 折返銘 長円（薄緑）」（平安時代・12世紀 個人蔵）をはじめ、国内所蔵の名刀の特別出品も決まり、刀剣ファンならずとも必見のチャンスです。

会期：1月21日㈮～3月25日㈮
〈**巡回展**〉新潟県立万代島美術館　4月23日㈯～6月19日㈰（予定）
静岡市美術館　7月2日㈯～8月28日㈰
兵庫県立美術館　9月10日㈯～11月20日㈰（予定）

■佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43　☎055-975-7278
https://www.sanobi.or.jp/

名刀百花



武士が台頭した時代、多くの名刀が誕生しました。平安時代の備前を代表する正恒、後鳥羽院の御番鍛冶を務めた粟田口国安、鎌倉幕府のお膝元で鍛刀した相州正宗、新刀の祖・堀川国広。それぞれの時代を代表する名匠が現れ、時代を牽引する刀剣を生み出しました。

それらの刀剣は、武田信玄、上杉謙信、織田信長など歴史に名を馳せた武将の愛蔵となり、大切に現代へと受け継がれています。

百花のごとく、それぞれに魅力を放つ名刀をお楽しみください。

会期：1月8日㈯～2月13日㈰

■刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9　☎03-6284-1000
https://www.touken.or.jp/museum/

第67回重要刀剣等新指定展

（公財）日本美術刀剣保存協会の審査事業は、日本刀の調査保存を目的に、昭和23年より行われ、現在では真偽鑑定を主目的とする基本の保存審査を第一義とし、より美術工芸品としての格づけを重視した審査として、特別保存、さらには重要刀剣等、特別重要刀剣等といった段階を設け審査を行っています。うち重要刀剣等審査は、作品の正真はもちろん、資料性や健全性を兼備した完成度の高い美術品として、優作であることの指定であり、毎年1回欠かすことなく審査は継続され今日に至っております。

日本刀の高い品格と真摯なるくろがねの美を、そして刀装・刀装具に現れた工芸美の粋を心ゆくまでご鑑賞ください。

会期：1月8日㈯～2月20日㈰

■足利市立美術館

〒326-0802 栃木県足利市通2-14-7　☎0284-43-3131
http://www.watv.ne.jp/ashi-bi/

足利市制100周年記念特別展
「戦国武将足利長尾の武と美
―その命脈は永遠に―」

150年続いた戦国時代、文正元年（1466）から天正18年（1590）まで120年以上にわたり足利の地を治めたのが足利長尾氏でした。各大名がしのぎを削り日々勢力域の変化する時代、歴代長尾氏は離合集散を繰り返しながら、各勢力のはざまに位置するこの地を治め続けたのです。

明日をも知れない極度の緊張した時代背景の中、歴代足利長尾氏は独自の価値観と美意識を作り上げます。芸術文化そして学びを重視するその気風は、今に受け継ぐ「歴史と文化のまち足利」の源流と言えるでしょう。

本展では、足利市制100周年記念事業として、歴代足利長尾氏が愛し、育み、その命脈を今に伝える多彩な芸術文化、そして先人たちの努力により脈々と足利学校へ受け継がれる学びの文化をご紹介します。

会期：2月11日㈮～3月27日㈰

会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。
現下の状況で入場制限や、観覧するには予約を必要とする場合もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

■佐賀県立博物館

〒840-0041 佐賀市城内1-15-23　☎ 0952-24-3947
https://saga-museum.jp/museum/

忠吉から忠広へ―集結！初代忠吉―

江戸時代、日本刀は、戦いの道具から武士のシンボルへと変化しました。それまで名刀の産地といえば、畿内（京都・奈良など）や美濃（岐阜）、備前（岡山）などでしたが、江戸時代に入ると全国各地に刀工集団が発生しました。中でも佐賀藩お抱え刀鍛冶・橋本新左衛門こと初代忠吉は、後に100名以上もの大刀工集団となる肥前刀工の祖として名高い、佐賀が誇る名工です。

本展覧会は、県立博物館が保有する初代忠吉の刀18口を一挙に公開する初めての展覧会です。初代忠吉は、初め「肥前国忠吉」と銘を切り、晩年に官位を得て「武蔵大掾藤原忠広」へと名を改めました。最初期から最晩年までの刀を一望することで、後に「最上大業物」と称される初代忠吉が大成してゆく様子をお楽しみいただけます。

刀 銘 肥前国忠吉／慶長五年八月吉日（佐賀県立博物館蔵）

会期：2月1日㈫～3月6日㈰

■伊那市立高遠町歴史博物館

〒396-0213 長野県伊那市高遠町東高遠457　☎0265-94-4444
https://www.nagano-museum.com/info/detail.php?fno=144

信州ゆかりの刀剣展

ミヤオビピクチャーズ制作の映画「信虎」が全国公開され、伊那市でも旭座で上映されています。同社からは信虎最期の地高遠で刀剣展を開催したいと依頼があり、戦国時代から江戸時代初期の製作と推定される刀剣を５点お貸しいただくことができ、当館で収蔵する中世の刀剣と併せて「信州ゆかりの刀剣展」と題してミニ展示を企画しました。

現在開催中ですので、信州にゆかりのある刀工の作品、高遠ゆかりの人物に関する貴重な作品をぜひご覧ください。

会期：11月2日㈫～2月20日㈰

■パナソニック汐留美術館

〒105-8301 東京都港区東新橋1-5-1　パナソニック東京汐留ビル4階
ハローダイヤル050-5541-8600　https://panasonic.co.jp/ew/museum/

未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展

わが国が誇る工芸技術「陶芸」は、時代とともに技法や表現が多様化し、現代まで著しく進化を遂げてきました。とりわけ昭和戦後期以降には、陶芸家の創作活動が活発化し、意欲的な作品が次々と発表されています。

1950年、陶芸をはじめ、さまざまな分野の工芸技術の保存と活用を目的に、文化財保護法が施行され、その５年後の文化財保護法改定を機に、日本工芸会が発足しました。日本工芸会は重要無形文化財保持者（いわゆる人間国宝）を中心に、各分野の伝統工芸作家、技術者らで組織され、「日本伝統工芸展」を中心に作品を発表。そして1973年には、同会陶芸部所属の作家による「第１回新作陶芸展（陶芸部会展）」が開催され、現在に至っています。

本展は日本工芸会陶芸部会50周年を記念した展覧会であり、同会で活躍した作家の秀作とともに、その活動の歴史を振り返るものです。歴代の人間国宝作品をはじめ、窯業地ならではの素材と伝統を受け継いだ作家らによる作品、茶の湯のうつわなど、伝統工芸の技と美をご紹介いたします。さらに、未来を担う若手作家らの作品も見どころのひとつといえるでしょう。

これまで当館では、「工芸・デザイン」をテーマにした展覧会を数多く開催してまいりました。 現代陶芸の今に焦点を当てた本展では、陶芸部会所属作家を中心に、さらにそれ以外の陶芸家の作品を含め、137作家139点を展覧します。

会期：1月15日㈯～3月21日㈪･祝
〈**巡回展**〉国立工芸館（石川展）／山口県立萩美術館・浦上記念館（山口展）／佐賀県立九州陶磁文化館（佐賀展）／MOA美術館（静岡展）／愛知県陶磁美術館（愛知展）／茨城県陶磁美術館（茨城展）／兵庫陶芸美術館（兵庫展）。詳細は各ホームページで

■松岡美術館

〒108-0071 東京都港区白金台5-12-6　☎03-5449-0251
https://www.matsuoka-museum.jp/

再開記念展「松岡コレクションの真髄」

初代館長であり、美術館の創設者である松岡清次郎は若いころから書画骨董を愛し、生涯をかけて一大コレクションを築きました。自らの感性のおもむくまま、時には「日本にまだないものを」と選び抜かれた美術品は、1800件あまりを数えます。今回は約２年８カ月ぶりの再開を記念して、松岡コレクション屈指の名品をご紹介します。古代ギリシア・ローマの彫像から昭和の絵画作品まで、時を超え、洋の東西を越えた清次郎の美の世界をお楽しみください。

会期：1月26日㈬～4月17日㈰

令和4年1月15日発行　　刀剣界　　第62号

令和4年(2022)　謹賀新年　本年もよろしくお願い申し上げます

掲載は申し込み順です

大和美術刀剣
大西康一
さいたま市南区大谷口5277
TEL 048-875-2122

飯田高遠堂
飯田慶雄
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
URL http://www.iidakoendo.com

株式会社 刀剣柴田
柴田光隆
〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-8
TEL 03-3573-2801
FAX 03-3573-2804
URL http://www.tokensibata.co.jp

刀剣研師
臼木良彦
〒135-0045
東京都江東区古石場1-2-7
TEL 03-3643-3228

研誠堂
石塚孝夫
〒113-0034
文京区湯島1-2-1
TEL 080-5473-0055

拵合せ致します
日本刀鞘師
水野美行
〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町6-1
TEL 03-3353-8810

つるぎの屋
冥賀吉也
冥賀亮典
東京都北区西ヶ原4-35-1
TEL 03-3576-1753
URL https://www.tsuruginoya.com/

尾崎刀剣研磨處
刀剣研師
尾崎明幸
大阪府大東市寺川2-1-31
メール oakiyuki@yahoo.co.jp

株式会社 安東貿易
代表取締役
安東孝恭
岡山県岡山市北区清輝橋2-1-32
TEL 086-226-1251
URL http://www.katana-ando.co.jp
刀剣チャンネル→YouTube

刀剣・書画・骨董
株式会社 和敬堂
土肥豊久
土肥富康
新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
URL http://www.wakeidou.com

(株)晴雅堂清水
代表取締役
清水儀孝
〒111-0032 台東区浅草2-30-11
TEL 03-3842-3777

川越 優古堂
三浦優子
埼玉県川越市新宿町1-9-13
TEL 049-249-0700
FAX 049-249-0702

美術刀剣
勝武堂
東京都中野区本町4-45-10
TEL 03-3381-3071
URL https://www.shoubudou.co.jp

やしま
齋藤雅稔
齋藤隆久
東京都西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

銀座 盛光堂
齋藤恒
東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
TEL 03-3569-2251(代)
URL http://www.ginzaseikodo.com

奈良県無形文化財保持者
月山貞利
〒633-0073
奈良県桜井市大字茅原228-8
TEL・FAX 0744-42-3230
URL http://gassan.info

刀剣・小道具・鎧
刀剣杉田
代表
杉田侑司
豊島区池袋2-49-5
TEL 03-3980-1461
FAX 03-3980-1463
メール info@token-net.com

阿雲亭
笹原俊和
〒869-2612
熊本県阿蘇市一の宮町宮地4375-1
携帯 090-3078-4044

銀座誠友堂
千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館2階
TEL 03-3558-8001
URL http://www.seiyudo.com

御刀研磨処楽屋
研師
平井隆守
岐阜県関市
メール onkatana@d6.dion.ne.jp

武蔵国一の宮 美術刀剣・骨董品・居合道・古式銃専門店
有限会社 清水商会
代表取締役
清水敏行
〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-7
TEL 048-644-3477
FAX 048-647-7434
URL http://www.surplusleopard.com/

刀剣・古美術・古書画 (株)日宝
代表取締役
田澤二郎
〒160-8321
東京都新宿区西新宿1-1-4
京王百貨店 新宿店6階 刀剣サロン
TEL 03-5321-5301(直通)

刀剣・古銭・切手・古美術品 売買
(株)城南堂古美術店
代表取締役
田中勝憲
東京都目黒区上目黒4-31-10
TEL 03-3710-6776
携帯 090-3208-9612

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂
川島貴敏
〒104-0061
東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
メール taibundo@herbox.ne.jp
URL https://www.taibundo.com

株式会社 丸英刀剣
瀬下明
瀬下昌彦
栃木県小山市乙女3-7-30
TEL 0285-45-0158

札幌 横山美術
横山忠司
〒060-0053
北海道札幌市中央区南三条東1-6
TEL 011-251-7652
FAX 011-251-1788

刀剣・書画・骨董・茶道具
ギャラリーみそのう
御園生敏明
東京都江東区亀戸2-8-6 長谷川ビル1F
TEL 0120-000-388
FAX 03-5626-6134

木村美術刀剣店
木村義治
群馬県高崎市萩原町484-10
TEL 027-352-1590
FAX 027-352-1591

(株)日本刀剣
伊波賢一
〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321

福隆美術工芸
FUKURYU FINE ARTS AND CRAFTS
代表者
綱取譲一
東京都中央区八丁堀3-1-3 飯野ビル1階
TEL 03-6280-4987

株式会社 美術刀剣松本
松本富夫
松本義行
千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
メール info@touken-matsumoto.jp

刀剣・小道具・武具類の売買、加工及び御相談承ります
大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋2-7-1
TEL 06-6631-2210
FAX 06-6644-5464

美術刀装具 石井
石井理子
〒639-2163
奈良県葛城市八川149-9
TEL 090-6236-8042

刀剣小道具
美術刀剣 前田
店主
前田幸洋
〒577-0826
大阪府東大阪市大蓮北2-14-5
TEL 090-9621-8196

日本刀研磨・諸工作相談承ります
美術工芸武神
刀剣研師
黒田充弘
〒514-0022
三重県津市愛宕町158番地
TEL 059-236-1982

赤荻刀剣店
赤荻稔
茨城県下妻市下妻乙172の5
TEL 0296-44-2643

もちだ美術
持田具宏
さいたま市中央区上落合1-9-4-447
TEL 048-855-4792

服部美術店
東京都中央区日本橋3-5-12・2F
TEL 03-3274-5170

刀剣・新古美術品
株式会社 宝古堂美術
代表取締役社長
山田雄一郎
東京都目黒区上目黒1-1-6
TEL 03-3792-0008

株式会社 山城屋
代表取締役
嶋田伸夫
東京都豊島区巣鴨1-21-8
TEL 03-3942-2701

株式会社 金丸刀剣店
金丸一三
〒146-0095
東京都大田区多摩川2-5-1-502
TEL 03-3728-3323

株式会社 眞玄堂
〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3252-7844
FAX 03-3251-1419
メール info@samuraigallery.com

日本刀 販売 買取
有限会社 葵美術
代表取締役
鶴田一成
渋谷区代々木1-54-6
TEL 03-3375-5553
メール info@aoijapan.jp
URL http://www.aoijapan.jp

刀剣の店 玉山名史刀
玉山祐司・真敏
岡山市北区田町1-1-1
TEL/FAX 086-227-4188
URL http://www.t-touken.com

株式会社 舟山堂
稲留修一
〒332-0011
埼玉県川口市元郷2-15-1-1309
TEL 048-222-8195

銀座長州屋
東京都中央区銀座3-10-4

刀処
(株)永和堂
朝倉万幸
朝倉忠史
長野県長野市南県町1136
TEL 026-228-0001

刀剣 髙吉
代表
髙島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
URL http://www.premi.co.jp

印刷／株式会社キタジマ